クボタロータリ

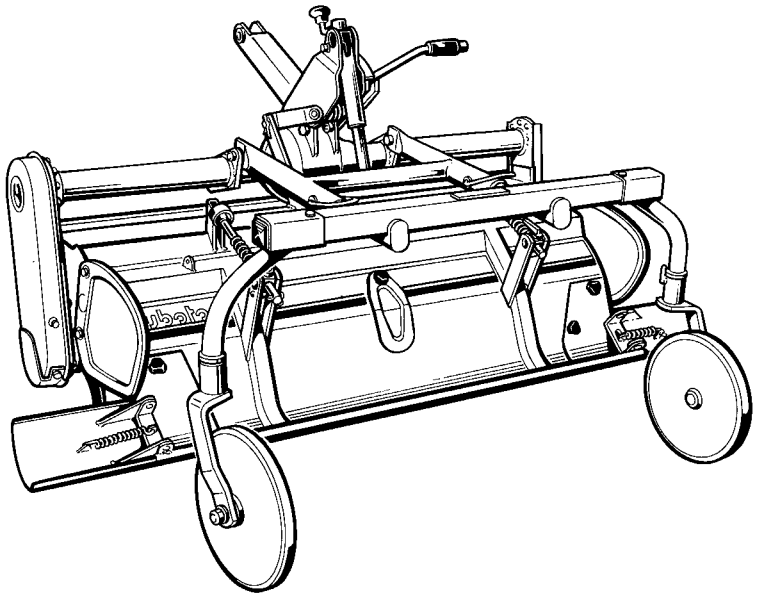
取扱説明書

RSP
(サイドドライブロータリ)

101・151
111・161
121
131(E)
141(E)

RKP
(センタドライブロータリ)

101
121



G-4683

安全宣言
安全はクボタの願い

ご使用前に必ずお読みください
いつまでも大切に保管してください

はじめに

このたびはクボタ製品をお買いあげいただきましてありがとうございました。
この取扱説明書は製品の正しい取扱い方法，簡単な点検および手入れについて説明しています。ご使用前によくお読みいただいて十分理解され，お買上げの製品が秀れた性能を発揮し，かつ安全で快適な作業をするためこの冊子をご活用ください。また，お読みになった後必ず大切に保存し，分からないことがあったときには取出してお読みください。なお，製品の仕様変更などにより，お買上げの製品とこの説明書の内容が一致しない場合がありますので，あらかじめご了承ください。

⚠ 安全第一

本書に記載した注意事項や機械に貼られた⚠の表示があるラベルは，人身事故の危険が考えられる重要な項目です。よく読んで必ず守ってください。
なお，⚠表示ラベルが汚損したり，はがれた場合はお買上げいただいた購入先に注文し，必ず所定の位置に貼ってください。

■注意表示について

本取扱説明書では，特に重要と考えられる取扱い上の注意事項について，次のように表示しています。

⚠ **危険**：注意事項を守らないと，死亡または重傷を負うことになるものを示します。

⚠ **警告**：注意事項を守らないと，死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。

⚠ **注意**：注意事項を守らないと，けがを負うおそれのあるものを示します。

重要：注意事項を守らないと，機械の損傷や故障のおそれのあるものを示します。

補足：その他，使用上役立つ補足説明を示します。

仕様について

この取扱説明書では，仕様の異なる製品を下記のように表示していますので，お買上げの製品の仕様をお確めのうえ，お間違いのないようお願いいたします。
なお，説明はRSP131Bを基本とし，RSP131Bと取扱いが異なる場合はその都度追加説明してあります。

- トラクタへの着脱方式
  - Aフレームなし …… **標準仕様(Sが付かない仕様)**
  - Aフレーム付き(スーパージョイント付き) …… **S仕様**
- 後２輪付き …… **B仕様(標準仕様)**
- スタンド付き(後２輪なし) …… **Bが付かない仕様**
- スペシャルタイプ（限定機種） …… **E仕様**
- カバー仕様
  - 畝立機用長穴カバー付 …… **標準仕様**
  - 畝立機用Vカットカバー付 …… **Ｖ仕様**
  - 折たたみ延長カバー付 …… **Ｙ仕様**
  - 畝立機用Vカットカバー，折たたみ延長カバー付 … **ＶＹ仕様**

7F712-5991-4

目　次

⚠安全に作業するために … ⚠-1

サービスと保証について …… 1
ご相談窓口 …… 1
ロータリの着脱のしかた …… 2
取付け前の準備 …… 2
ロータリの取付け方法と適応型式 …… 2
トラクタへの装着 …… 2
ロータリの取付け方【標準仕様】 …… 2
ロータリの取付け方【S仕様】 …… 4
ロータリの取外し方 …… 7
ロータリの上手な使い方 …… 10
なた爪の取付け方 …… 10
サイドドライブ仕様 …… 10
草切爪【サイドドライブ仕様（E仕様を除く）】 …… 11
草巻付き防止ワイヤ【サイドドライブ仕様（E仕様を除く）】 …… 11
センタドライブ仕様 …… 14
均平耕法の配列 …… 14
１つ盛り耕法の配列 …… 15
２つ盛り耕法の配列 …… 15
ロータリの調整 …… 16
ロータリカバーの調整 …… 16
ニューフラップカバーの使用法【サイドドライブ仕様】 …… 16
補助カバーR・Lの取外し方 …… 17
延長カバーの使用法【Y仕様】 …… 17
サイドカバーの上手な使い方 …… 17
後２輪の調整（E仕様は後２輪別売） …… 18
後２輪ホルダの前後調整 …… 18
後２輪のホルダ上下調整 …… 18
後２輪ハンドルによる耕深調整 …… 18
スプリングロックの調整【E仕様を除く】 … 20
スナップピンの調整【E仕様】 …… 21
オートハンガの調整【E仕様を除く】 …… 22
畝立機の取付け …… 22
Vカバー仕様の場合 …… 22
標準仕様の場合 …… 23
逆転PTOの使用方法 …… 24
爪軸交換のしかた …… 24
作業前の点検について（日常点検） …… 26
点検箇所 …… 26
点検は次の順序で実施してください … 26
点検のしかた …… 26
①ユニバーサルジョイントのロックピンの確認 …… 26
ロータリの簡単な手入れと処置 …… 27
定期点検箇所一覧表 …… 27
給油一覧表 …… 28
推奨オイル・グリース一覧表 …… 28
ギヤーオイル …… 28
グリース …… 28
各部の油量点検と交換 …… 29
ギヤーケースオイル【サイドドライブ仕様】 …… 29
チェーンケースオイル【サイドドライブ仕様】 …… 30
ロータリケースオイル【センタドライブ仕様】 …… 30
グリースの補給と注油 …… 31
ユニバーサルジョイント …… 31
爪軸ベアリングケース【サイドドライブ仕様】 …… 31
後２輪のグリースニップル部【B仕様】 … 31
ホルダ（ジョイント）内スプライン部【S仕様】，ロータリ入力軸【S仕様】 … 31
スプリングロックしゅう動部【E仕様を除く】 …… 32
オートハンガしゅう動，回動部【E仕様を除く】 …… 32
草巻付き防止ワイヤU金具内部【サイドドライブ仕様（E仕様を除く）】 …… 32
内管（後2輪調整ネジ部） …… 32
スライドレバー部【サイドドライブ仕様】 …… 32
シールの組換え …… 32
付表 …… 33
主要諸元 …… 33
標準付属品 …… 33
アタッチメント一覧表 …… 34
主な消耗部品一覧表 …… 36

▲ 安全に作業するために

必ず読んでください。

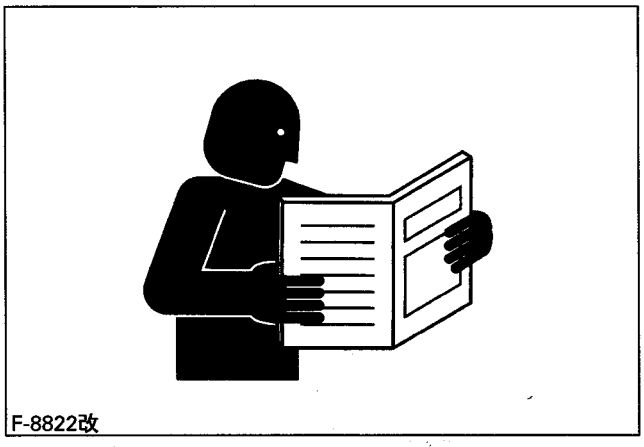
本機をご使用になる前に，必ずこの『取扱説明書』をよく読み理解した上で，安全な作業をしてください。安全に作業をしていただくため，ぜひ守っていただきたい注意事項は下記の通りですが，これ以外にも，本文の中で▲危険・▲警告・▲注意・重要・補足としてそのつど取上げています。

1．ロータリを使用する前に

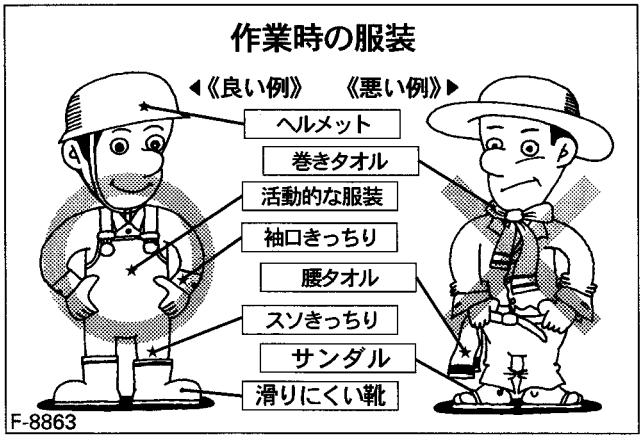
(1)ロータリを使用する前に必ず，この取扱説明書とトラクタ本機の取扱説明書，及び，機械に貼ってある▲表示ラベルをよく読み，理解した上で作業してください。

(2)ロータリを他人に貸すとき，また，他人に作業を依頼するときは，事前に操作のしかたを教え，本書を読ませてください。

(3)本書及びラベルの内容が理解できない人や子供には絶対に作業させないでください。


F-8822改

(4)ダブダブやかさばった衣服を着用しないでください。
回転部分や操縦装置にひっかかり事故の原因になります。
安全のため，ヘルメット，安全靴，保護めがねや手袋などを必要に応じて使ってください。

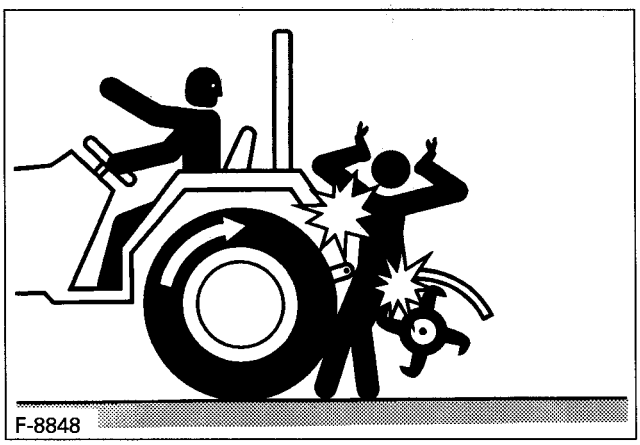


F-8863

2．ロータリの着脱時

(1)PTOを中立にして平坦な場所で行なってください。

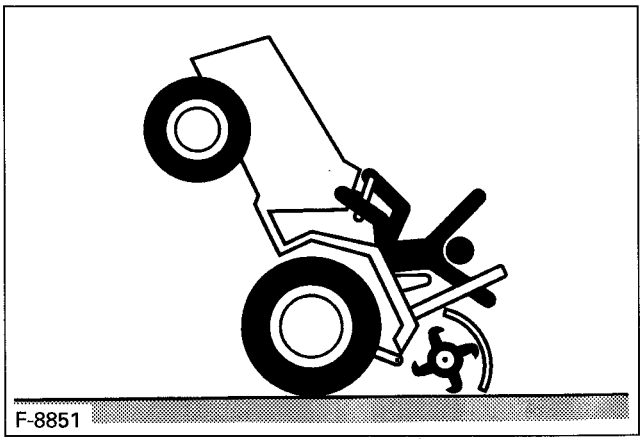
(2)トラクタとロータリの間に立たない，また立たせないでください。
挟まれるおそれがあります。


F-8848

(3)二人作業の場合はお互いに合図しあい，注意して作業してください。

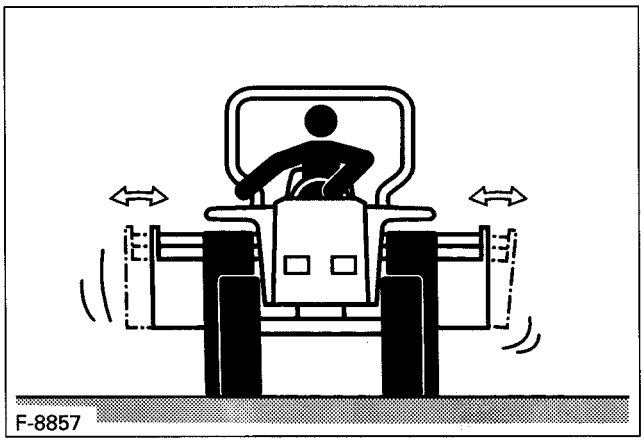
(4)3点リンクの止めピンやユニバーサルジョイントのロックピンが確実にセットされていることを確認してください。

(5)装着するトラクタによってそれぞれ前後バランスが異なりますので，前部ウエイトの指示がある場合は必ず装着してください。
前輪が浮上がり事故の原因になります。


F-8851

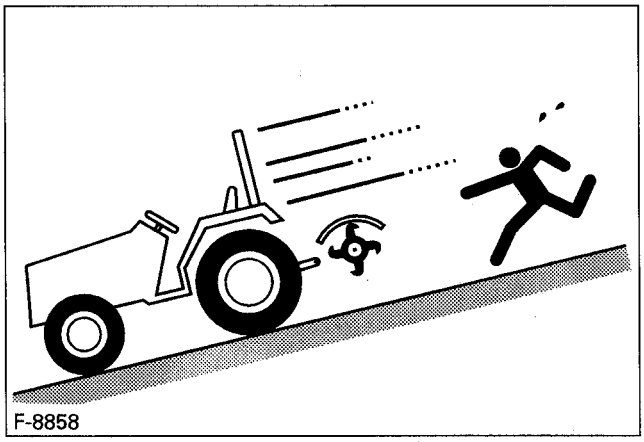
▲ 安全に作業するために

(6)ロアーリンクのチェックチェーンはロータリが左右に２～３㎝動く程度に調節してください。
走行時，ロータリが揺れてバランスをくずし事故の原因になります。

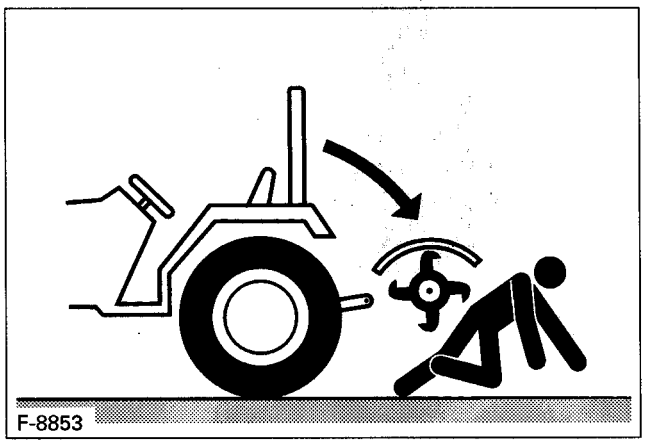


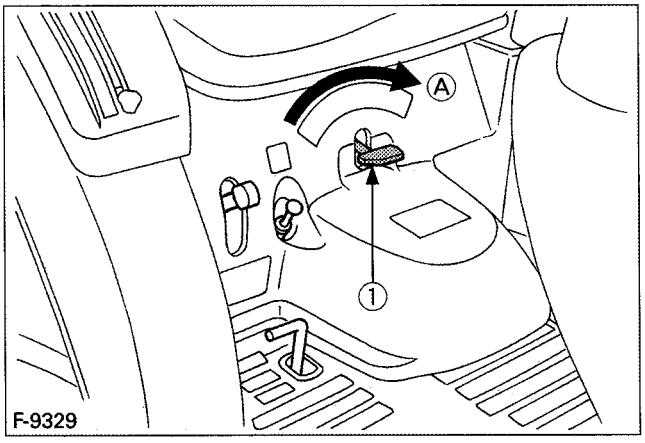
3．耕うん爪の点検や交換及び調整時

(1)トラクタを平坦な場所に置いてください。
(2)駐車ブレーキを掛け，エンジンを停止してください。
トラクタが動き出すおそれがあります。



(3)ロータリの落下防止のため油圧ロックをしてください。
ロータリが落下するおそれがあります。



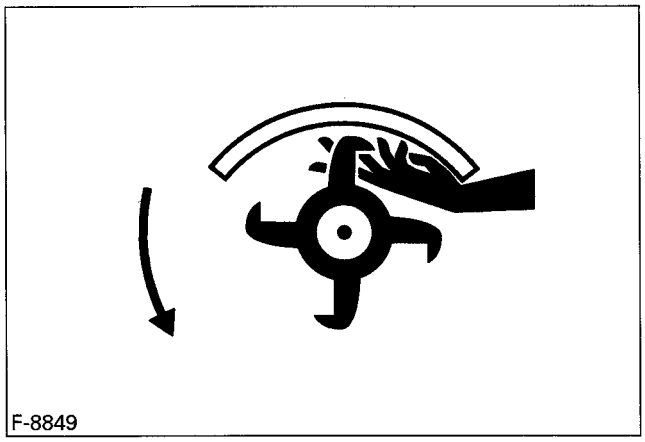


①落下速度調整レバー　Ⓐ“ロック”

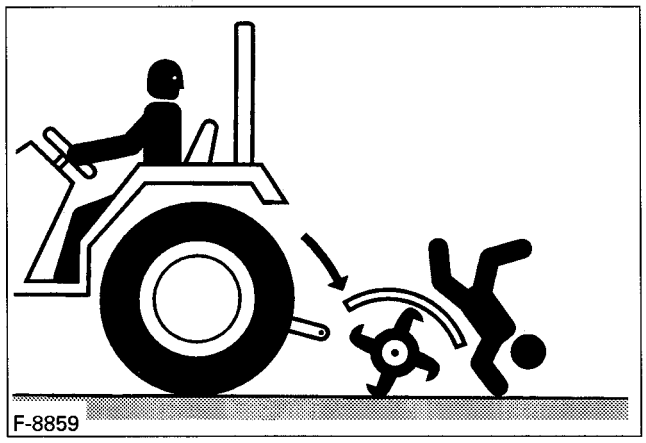
4．運転時

(1)安全カバー類を外した状態でロータリを使用しないでください。又紛失したり損傷した場合，交換してください。
巻込まれや，切傷事故の原因になります。

(2)ユニバーサルジョイント，爪軸等回転部分には近づかないでください。
裂傷・巻込まれ等，事故のおそれがあります。

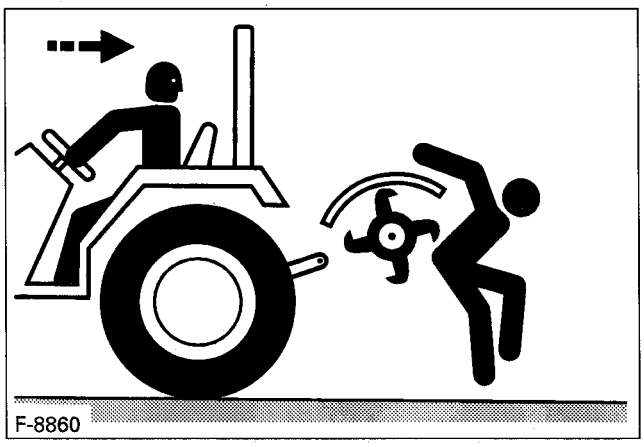

F-8849

(3)ロータリの上に人を乗せないでください。

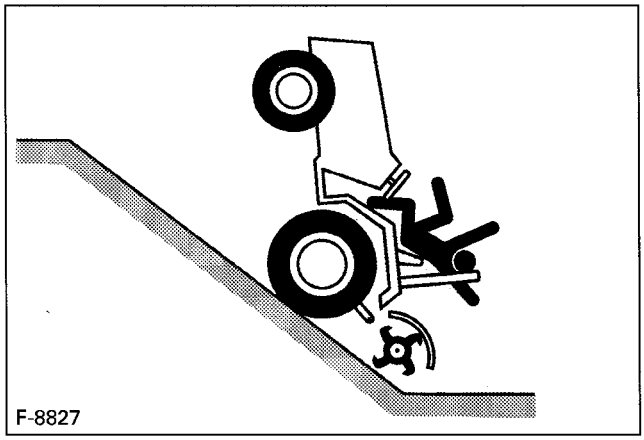

F-8859

(4)必ず座席に座ってロータリ作業を行なってください。作業中，トラクタの飛降り，飛乗りは重大事故につながります。

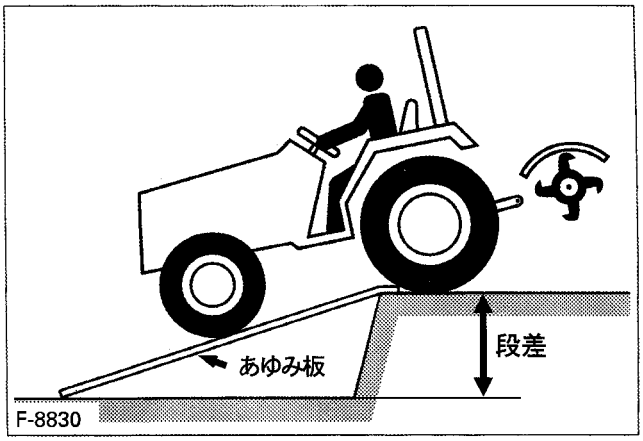
(5)ロータリを持上げ，バック及び急旋回するときは，周囲の安全確認を行なってください。


F-8860

(6)傾斜地やあぜを登るときは，転倒防止のためロータリを下げて前輪の浮上がりを防いでください。


F-8827

(7)ほ場の出入りなどで，高低差の大きい急傾斜の登り降りや，溝越えが必要な場合，あゆみ板を使用し，確実に固定してから低速で行なってください。

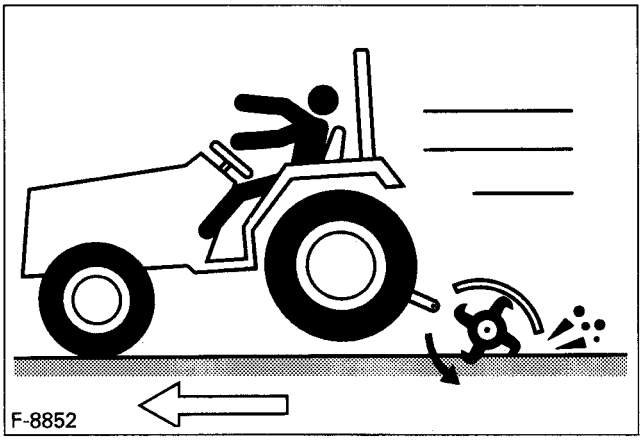


F-8830

あゆみ板は段差の４倍以上の長さのものを使用してください。

▲ 安全に作業するために

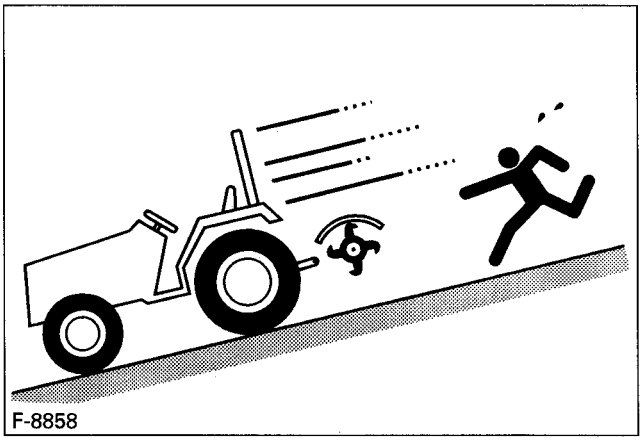
(8)耕うん中，硬いほ場でトラクタが前に飛出した場合，すぐクラッチを切り，ブレーキを踏んでください。次に，より遅い車速に変速し，爪軸回転を上げて飛出しが起こらないように作業してください。
２輪駆動，４輪駆動の切り換え可能なトラクタは，４輪駆動にしてください。

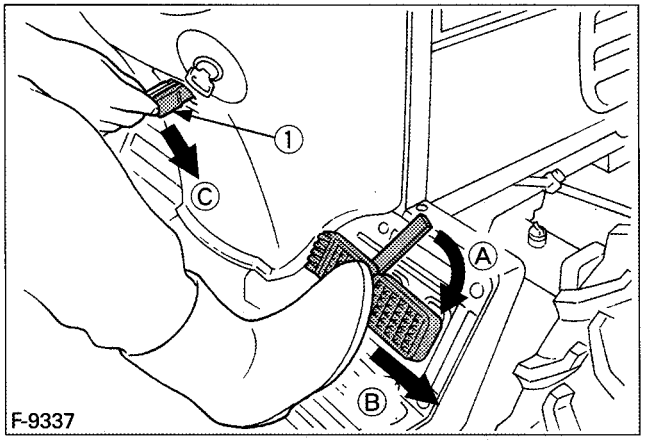


(9)ロータリをトラクタに装着して公道を走行できません。(道路運送車両法の保安基準)
作業機を装着して走行すると，他の車や電柱などに引っかけて事故の原因になります。

5．格納時

(1)トラクタを平坦な場所に置いてください。
(2)ロータリを下げ，地面に接地させてください。ロータリが落下するおそれがあります。
(3)駐車ブレーキを掛け，エンジンを停止してください。
トラクタが動き出すおそれがあります。

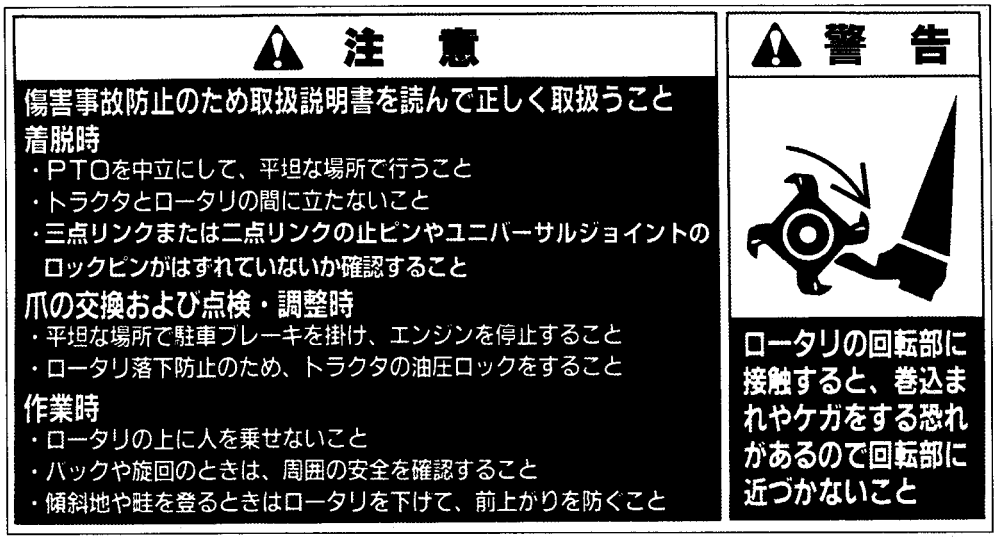




①駐車ブレーキレバー　Ⓐ“連結金具をかける”
Ⓑ“踏込む”
Ⓒ“下げる”

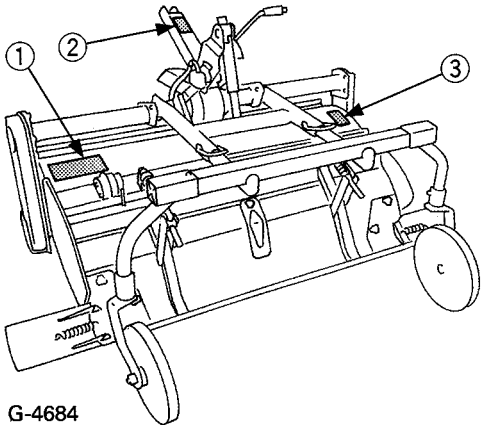
6．▲表示ラベルと貼付位置

① 品番　7C705-5646-2

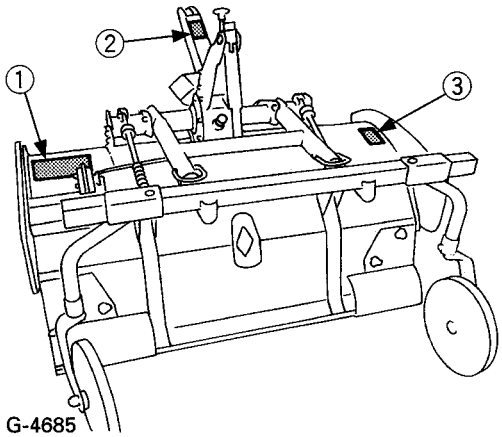


③ 品番　7F712-5613-1

② 品番　7C705-5881-1



G-4684



G-4685

7．▲表示ラベルの手入れ

(1)ラベルは，いつもきれいにして傷つけないようにしてください。
もしラベルが汚れている場合は，石鹸水で洗い，やわらかい布で拭いてください。

(2)高圧洗浄機で洗車すると，高圧水によりラベルが剝がれるおそれがあります。高圧水を直接ラベルにかけないでください。

(3)破損や紛失したラベルは，製品購入先に注文し，新しいラベルに貼替えてください。

(4)新しいラベルを貼る場合は，貼付け面の汚れを完全に拭取り，乾いた後，元の位置に貼ってください。

(5)ラベルが貼付けられている部品を新部品と交換するときは，ラベルも同時に交換してください。

サービスと保証について

この製品には，保証書が添付してありますのでご使用前によくご覧ください。

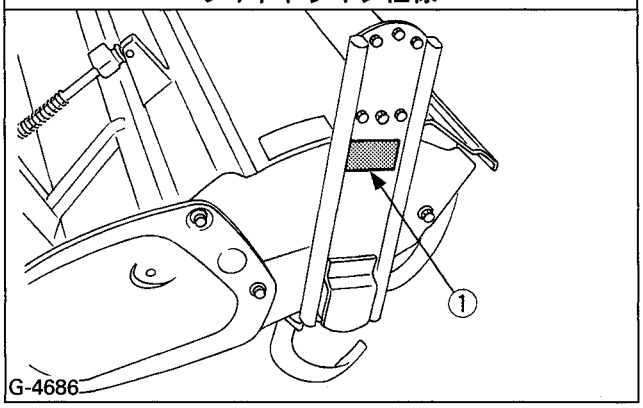
■ご相談窓口

ご使用中の故障やご不審な点及びサービスについてのご用命は，お買上げいただいた購入先に，それぞれ**“ご相談窓口”**を設けておりますのでお気軽にご相談ください。
その際，ロータリ名称と機械番号を併せてご連絡ください。
なお，部品ご注文の際は，購入先に純正部品表を準備しておりますので，そちらでご相談ください。

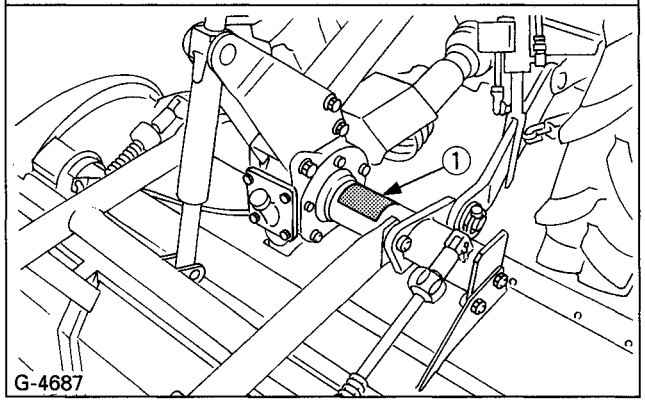
警　告

＊機械の改造は危険ですので，改造しないでください。改造した場合や取扱説明書に述べられた正しい使用目的と異なる場合は，メーカ保証の対象外になるのでご注意ください。

サイドドライブ仕様



センタドライブ仕様

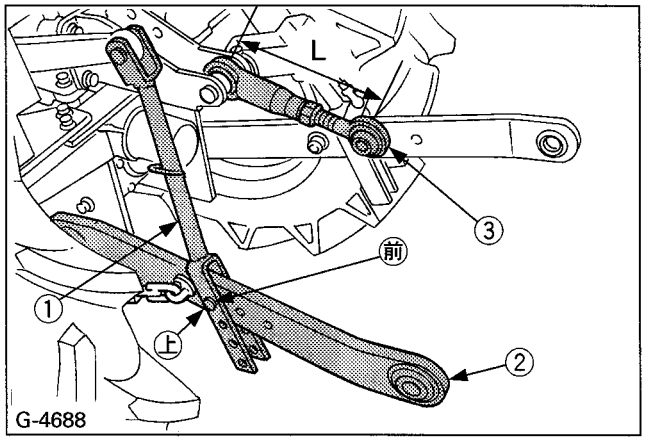


①ロータリ名称・機械番号

ロータリの着脱のしかた

取付け前の準備

GB16，GB18，GB20，B92トラクタに装着するときは，リフトロッドとロアーリンクのセット位置，又，トップリンク長さを下図の通りであることを確認の上ロータリを取付けてください。



①リフトロッド　　トップリンク長さL＝205㎜
②ロアーリンク
③トップリンク

注　意

＊トップリンク長さ，ロアーリンク穴位置，リフトロッド穴位置を間違うと，ジョイント抜けやトップリンクの破損等による傷害事故のおそれがあります。

■ロータリの取付け方法と適応型式

（この表は一般的な組合わせを示しています。）

トラクタ型式	GB16, GB18, GB20, B92
ロータリ型式	RSP101, RSP111, RSP121, RSP131 RSP141, RSP151, RSP161 RKP101, RKP121
トップリンク長さ“L”寸法(㎜)	205
ロアーリンク取付穴	前
リフトロッド左·右の取付穴	上

◎トップリンク長さ**“L”**寸法は205㎜を目安とし200～210㎜の範囲で音の静かになる長さに調整してください。

トラクタへの装着

注　意

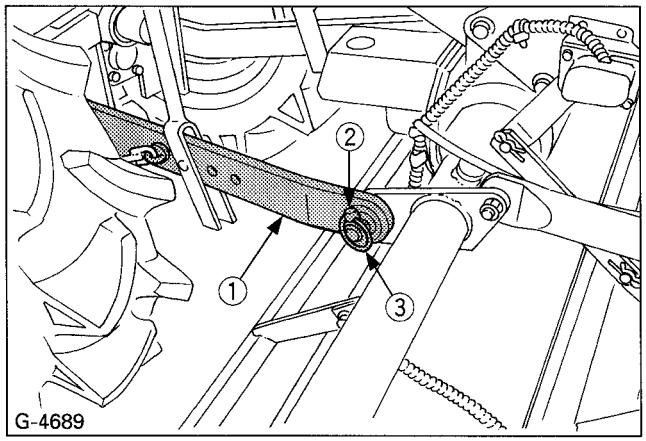
＊ロータリの取付け・取外しは，PTOを中立にし駐車ブレーキを掛けて平たんな場所で行なってください。
＊トラクタとロータリの間に立たないでください。はさまれるおそれがあります。
＊ユニバーサルジョイントの安全カバーを外したままで使用しないでください。傷害事故を引起すおそれがあります。

■ロータリの取付け方【標準仕様】

ロータリをトラクタに取付ける場合，まずトラクタをロータリの接続部と合うところまでバックさせ，エンジンを止め，駐車ブレーキを掛けてください。

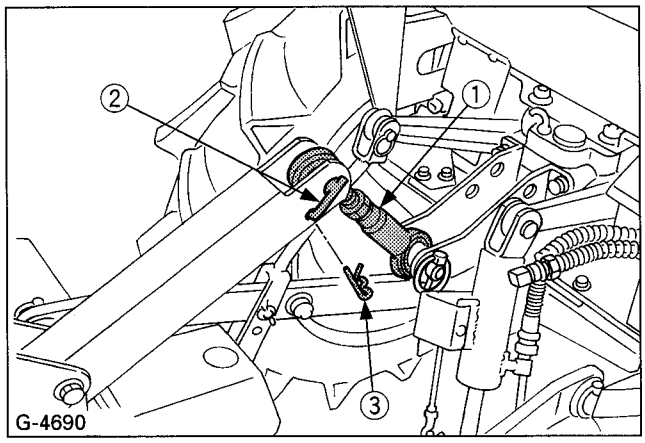
❶ロアーリンクとリフトロッド取付け位置を確認してください。（**“取付け前の準備”**の項を参照）

❷ロアーリンクにロータリを取付けます。
まずロアーリンク(左)を取付け，次にリフトロッド(右)のハンドルを回して，長さを調整しながらロアーリンク(右)を取付けてください。
抜け止めにピンを入れ，リングを倒し，ロアーリンクが外れないようにしてください。
(モンローマチック付トラクタの場合は，エンジンを始動し水平切換スイッチを**“手動”**又は**“水平”**に切換え，角度調節スイッチでリフトロッド(右)を上下方向に調整しながら取付けてください。取付後エンジンを停止してください。)



①ロアーリンク
②ピン
③リング

❸トップリンクにロータリを取付けます。
後２輪ハンドルで調整しながら取付けます。
ピンで取付け，抜け止めにスナップピンを入れてください。



①トップリンク
②ピン
③スナップピン

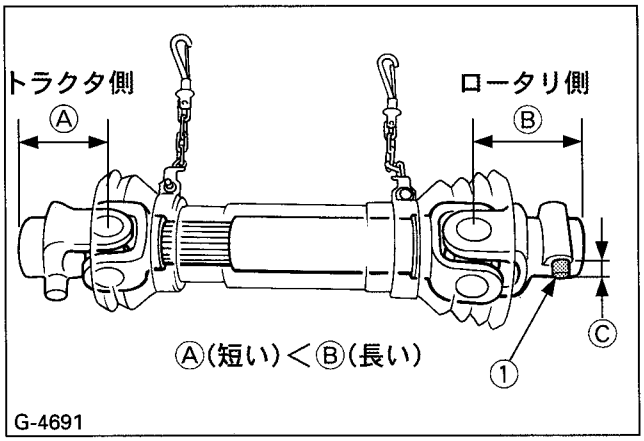
❹ユニバーサルジョイントを取付けます。
ユニバーサルジョイントのオス側のロックピンを指で押込みながら，トラクタのPTO軸ケースに当るまで差込みます。
次にメス側をロータリの入力軸にロックピンを指で押込みながら差込んで，ロックピンでロックします。
そしてトラクタ側を手前に引き，ロックピンを溝に確実に入れてください。

警　告

傷害事故防止のため次の事をまもってください。

＊ユニバーサルジョイントのロックピンが，正確に溝にはまったかどうかの確認は，ピンの頭が７㎜以上出ているか確認してください。

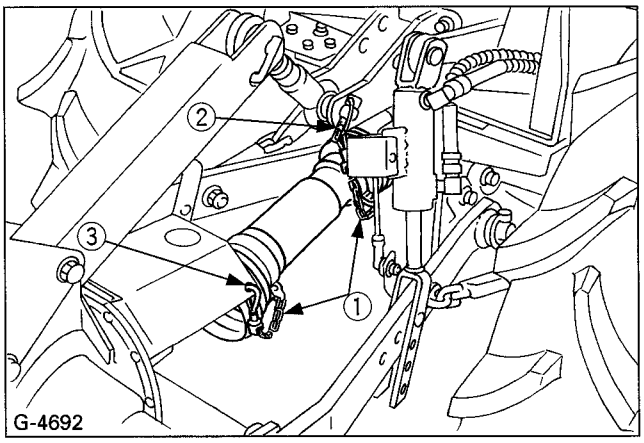
＊ユニバーサルジョイントの取付けは，必ずオス側（ヨーク長さが短い側Ⓐ）をトラクタ側に，メス側（ヨーク長さの長い側Ⓑ）をロータリ側に取付けてください。



①ロックピン

Ⓐトラクタ側“ヨーク長さ”
Ⓑロータリ側“ヨーク長さ”
Ⓒ“7㎜以上出ているのが正常です。”

❺安全カバー回転止め鎖を取付けます。
トラクタ側の鎖は，トラクタのトップリンクブラケットの穴に，ロータリ側は，ロータリのジョイントカバーの小穴に取付けてください。



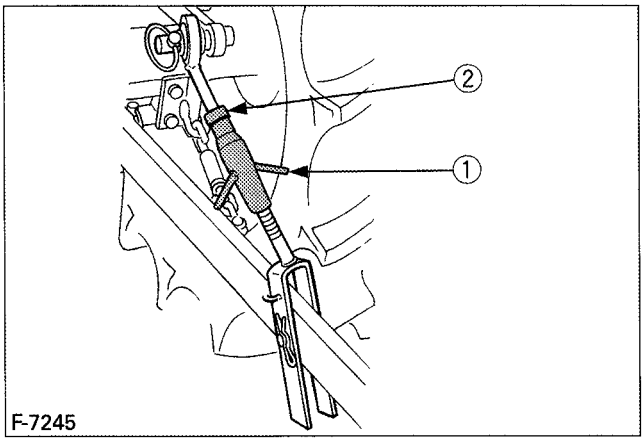
①鎖
②トップリンクブラケットの穴
③ジョイントカバーの小穴

❻リフトロッド(右)を調整します。

【トラクタのM・MA仕様以外】

トラクタの油圧レバーでロータリを持上げて，ロータリの爪軸がトラクタの車軸と平行になるように，ハンドルを操作して調整してください。

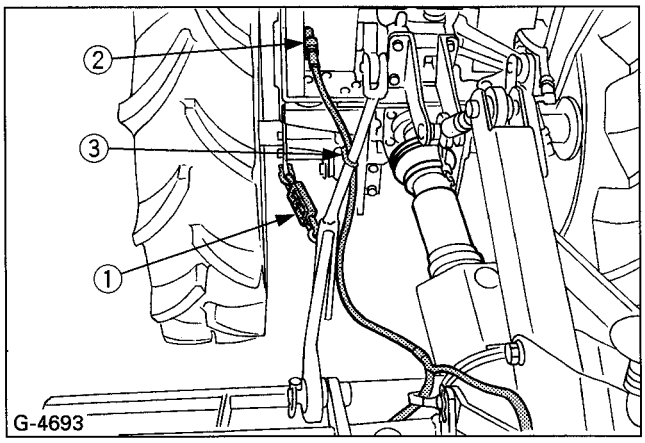
調整後は，ロックナットで固定してください。



①ハンドル
②ロックナット

❼チェックチェーンを張ります。

ロータリを少し持上げエンジンを止めてからユニバーサルジョイントが，上から見て一直線になるように，チェックチェーンを左右均等に保ち(ロータリが横方向に２～３㎝動く程度)，スナップピンでロックして，ロータリの横振れを制限してください。



①チェックチェーン
②カバーセンサコネクタ
③コネクタ受け

❽ロータリを持上げて，エンジンを止め，PTO変速レバーを**“中立”**にして，ユニバーサルジョイントが手で，軽く回るかを確認してください。

❾カバーセンサコネクタをリフトロッドのコネクタ受けに通し，トラクタに接続してください。

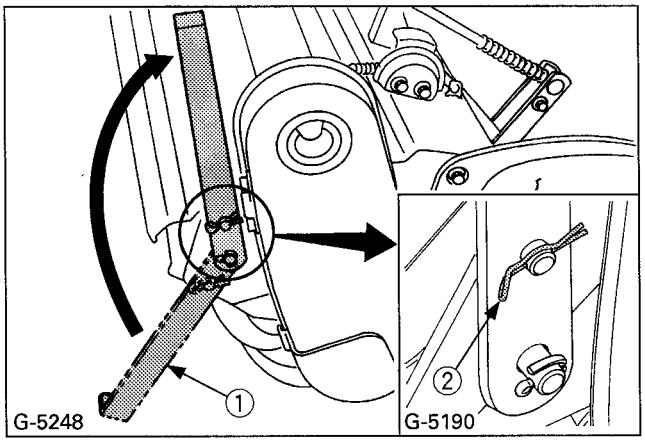
【トラクタのMA仕様】

❿フロントスタンドとリヤスタンドを格納してください。

【B仕様を除く】

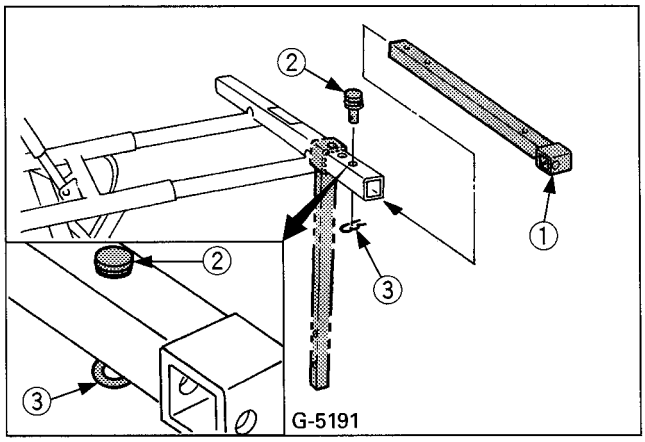
1.フロントスタンドのスナップピンを抜き，上側へ回動させます。

2.スタンドのピン穴を合わせ，スタンドの支点部を押し，スナップピンで抜け止めします。



①フロントスタンド
②スナップピン

3.リヤスタンドは後２輪ホルダから抜き，下端部から後２輪ホルダ内へ挿入し，外側の穴にアタマツキピンを入れ少し押込み，スナップピンで抜け止めします。

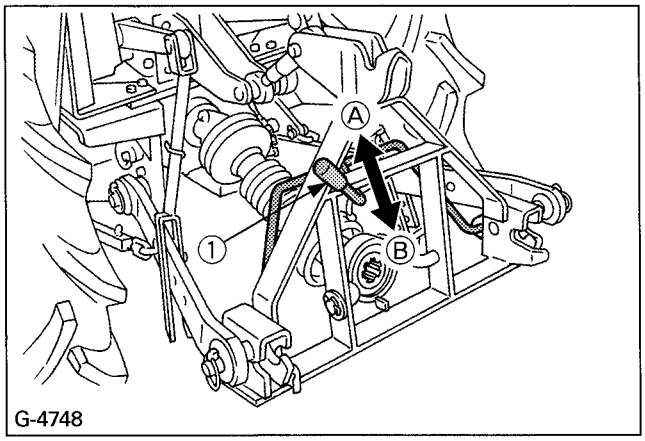


①リヤスタンド
②アタマツキピン
③スナップピン

■ロータリの取付け方【S仕様】

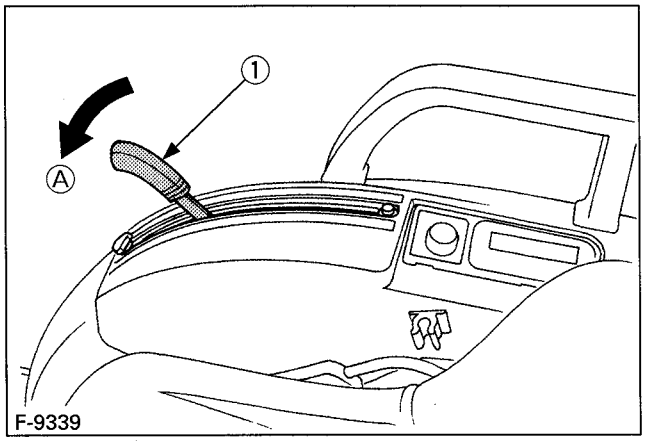
❶ロータリの取付け姿勢を確認してください。
(**“ロータリの取外し方”**の項を参照)

❷Aフレームの着脱レバーを**“着”**の位置にします。



①着脱レバー　　Ⓐ“着”
Ⓑ“脱”

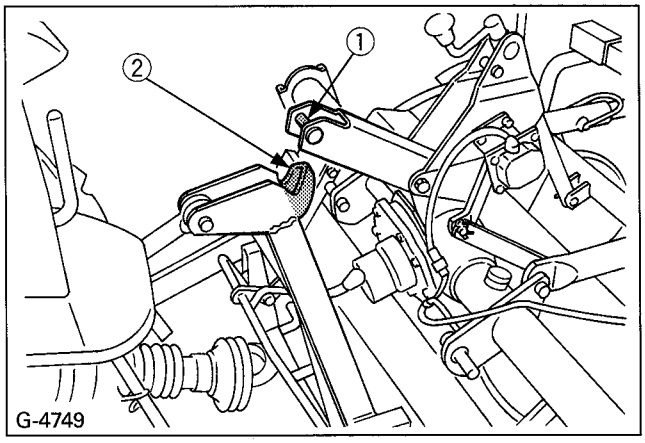
❸トラクタに乗車して，油圧レバーを**“下げ”**方向に操作し，Aフレームを降ろしてください。



①油圧レバー　　Ⓐ“下げる”

❹Aフレームのフック部先端が，トップマスト上部ピンのやや下(１～２㎝)にくるように，ゆっくりバックしてください。

❺油圧レバーを，ゆっくり**“上げ”**方向に操作し，Aフレームのフック部がトップマスト上部ピンに，確実に引掛ったことを確認してから，ロータリを吊上げてください。
ジョイント部がロータリ入力軸に自動的に連結されます。



①トップマスト上部ピン
②Aフレームフック部

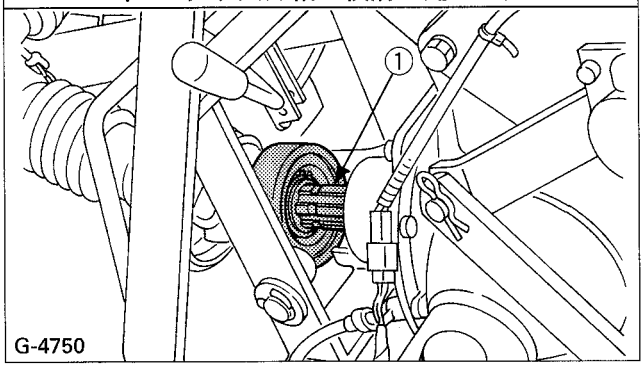
重　要

＊バックするとき，Aフレームを下げすぎると，Aフレームとフロントカバーが当るので注意してください。

＊トラクタとロータリのセンタが同一直線上に重なり合うよう，トラクタをバックしてください。

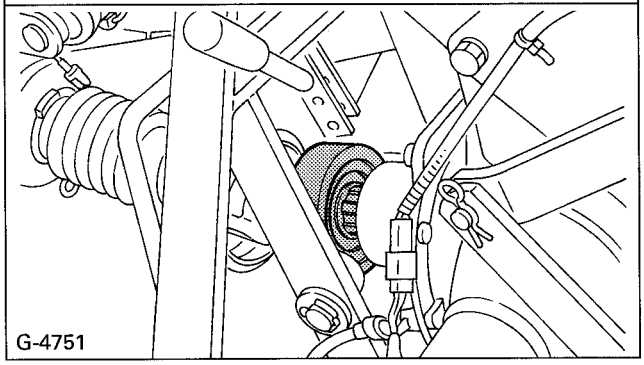
❻**“カチッ”**と音がせずジョイント部がロータリ入力軸と連結されない場合は，PTO変速レバーを１段に入れ，アイドリング状態でジョイントを回転させると，ジョイント部がロータリ入力軸に自動的に連結されます。

ジョイント部が連結されていない状態
（ロータリ入力軸の横溝が見える）

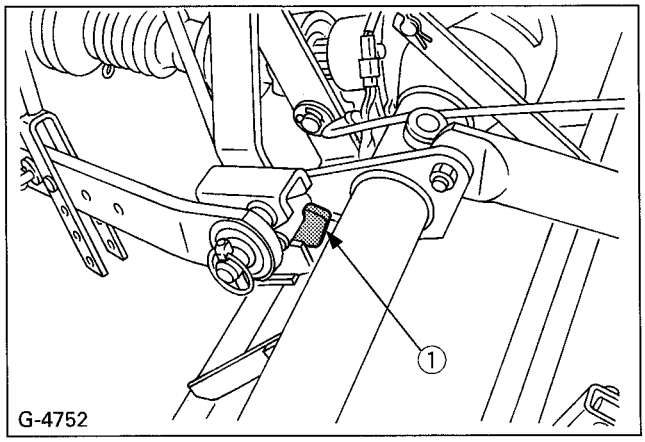


①ロータリ入力軸

ジョイント部が連結完了した状態
（ロータリ入力軸の横溝が見えない）



❼装着後，左右のフックが，AフレームのU字金具内のピンに確実に引掛っているか確認してください。



①フック

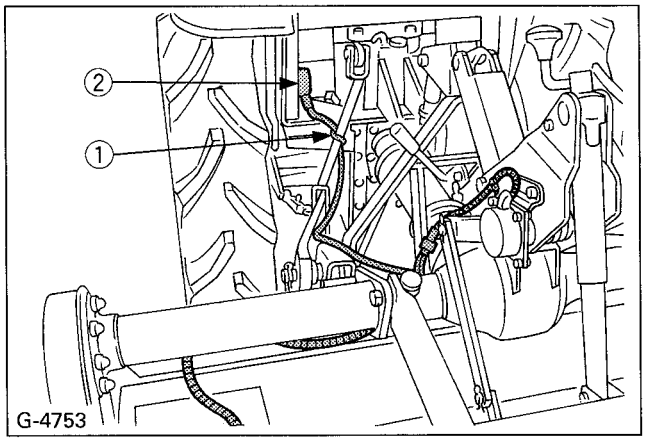
注　意

＊トラクタとロータリを接続後，ジョイントが確実にセットされているか，確認してください。傷害事故を引起すおそれがあります。

＊フックが確実にロック状態にあるか，確認してください。ロータリが脱落するおそれがあります。

❽カバーセンサコネクタをリフトロッドのコネクタ受けに通し，トラクタに接続してください。

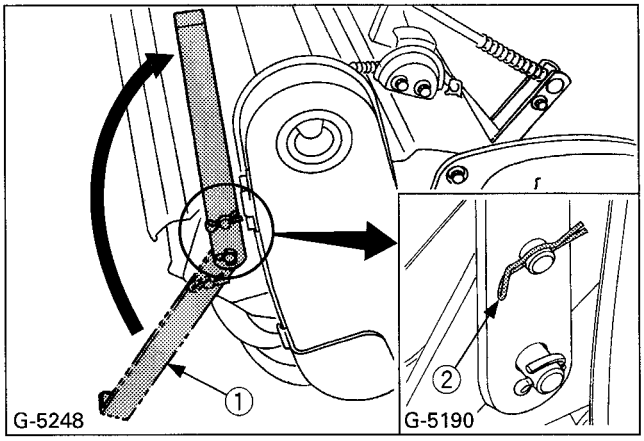
【トラクタのMA仕様】



①コネクタ受け
②カバーセンサコネクタ

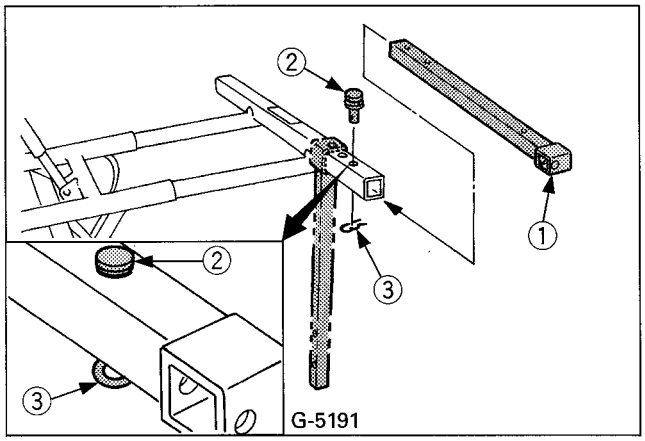
❾フロントスタンドとリヤスタンドを格納してください。 **【B仕様を除く】**

フロントスタンドはスナップピンを抜き，外側へ引き，上側へ回動させて上部のピンに穴を合わせ，差込むようにスタンドの支点部を押し，スナップピンで抜け止めします。



①フロントスタンド
②スナップピン

リヤスタンドは後２輪ホルダから抜き，下端部から後２輪ホルダ内へ挿入し，外側の穴にアタマツキピンを入れ少し押込み，スナップピンで抜け止めします。



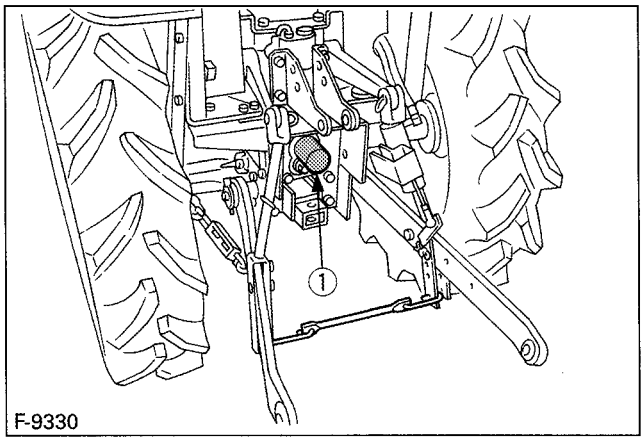
①リヤスタンド
②アタマツキピン
③スナップピン

ロータリの取外し方

注　意

傷害事故の防止のため，ロータリ取外し時は次の事を守ってください。

＊PTOを中立にし，平たんな場所で行なう。
＊ロータリの着脱時は必ず後２輪又はスタンドを取付ける。
＊ロータリに寄りかかったり，乗ったりしない。
＊PTO軸を使わない場合は，PTO軸キャップを取付ける。
＊Aフレームからロータリを外した状態で，PTO軸を回転させない。【S仕様】



①PTO軸キャップ

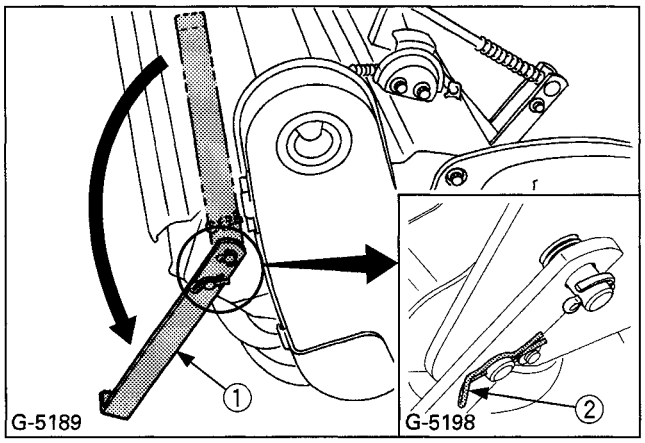
次の調整を行ない取付け方の逆に行なってください。

◆フロントスタンドとリヤスタンドのセット

【B仕様を除く】

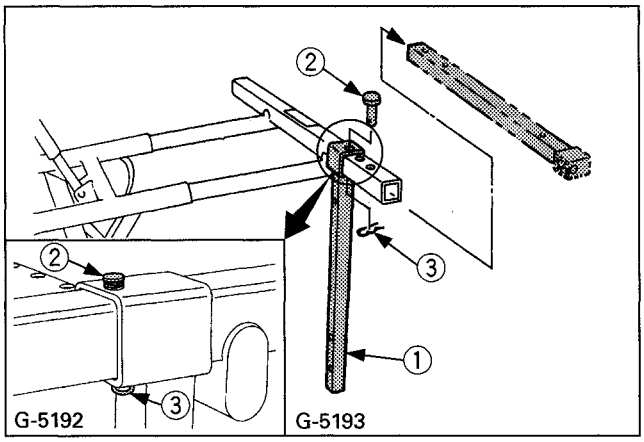
❶フロントスタンドのスナップピンを抜き，下側へ回動させます。

❷スタンドのピン穴を合わせ，スタンドの支点部を押し，スナップピンで抜け止めします。



①フロントスタンド
②スナップピン

❸リヤスタンドは後２輪ホルダから引抜き，角パイプ部を後２輪ホルダに差込み，内側の小穴にアタマツキピンを押込み，スナップピンで抜け止めします。

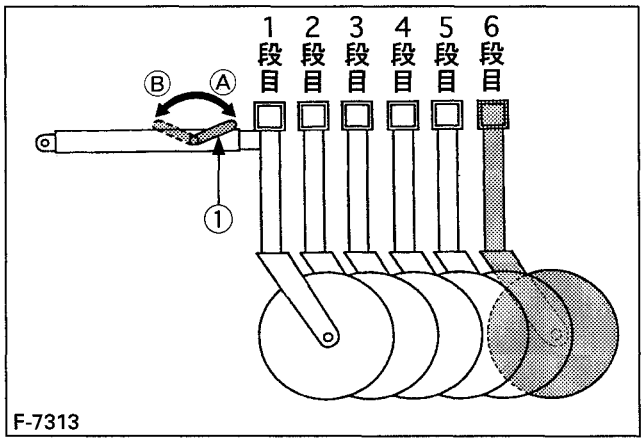


①リヤスタンド
②アタマツキピン
③スナップピン

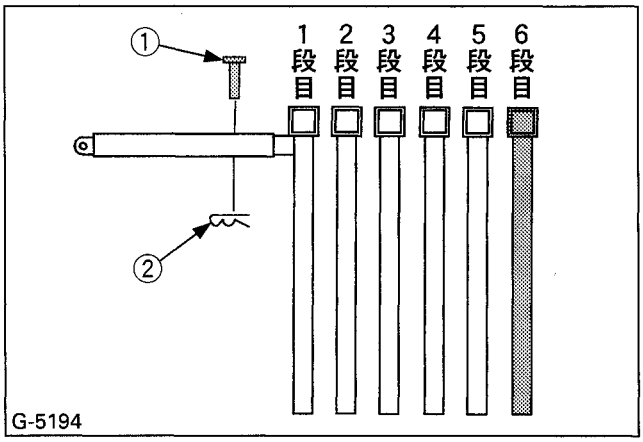
◆後２輪又はスタンド位置の調整

後２輪ホルダの前後方向の位置は６段目(**“後２輪ホルダの前後調整”**の項を参照)，上下方向は㊤の位置(**“後２輪ホルダの上下調整”**の項を参照)にしてください。

〔前後方向〕

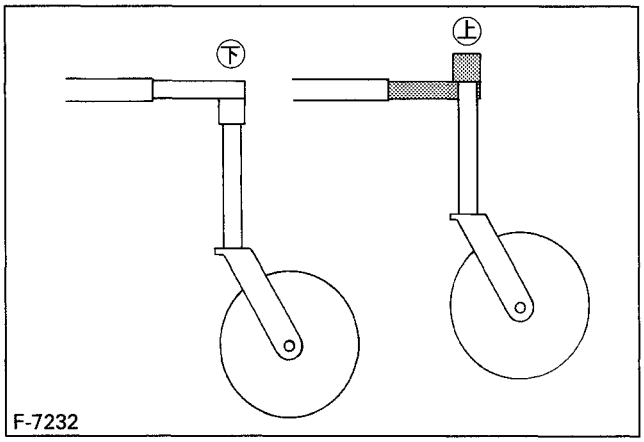


①ロックレバー　　Ⓐ“ロック”
Ⓑ“解除”



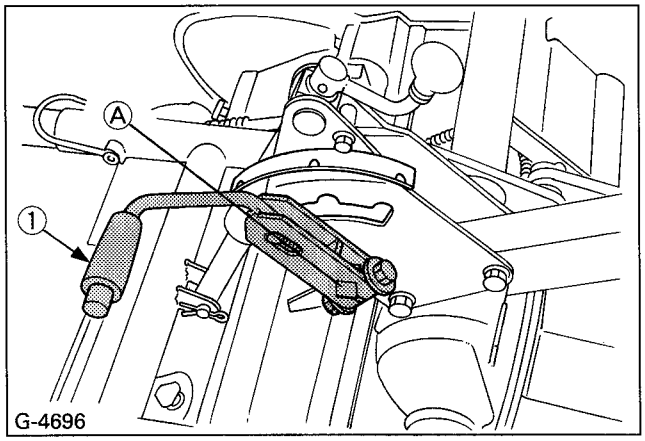
①アタマツキピン
②スナップピン

〔上下方向〕



◆ニューフラップカバーの調整

スライドレバーを**“耕うん・培土”**の位置に調整してください。

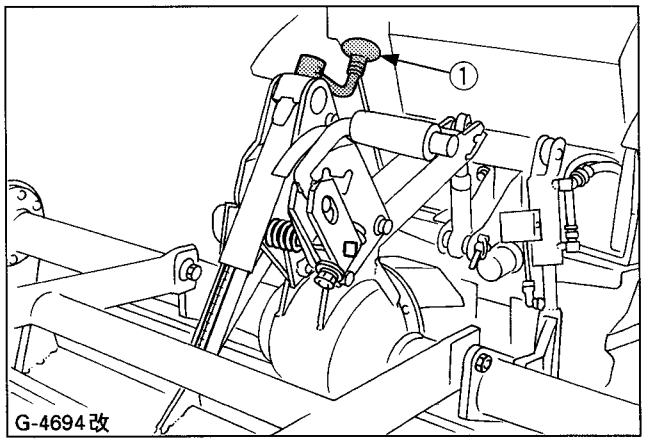


①スライドレバー　　Ⓐ“耕うん・培土”

◆後２輪ハンドルの調整

【スーパージョイント仕様を除く】

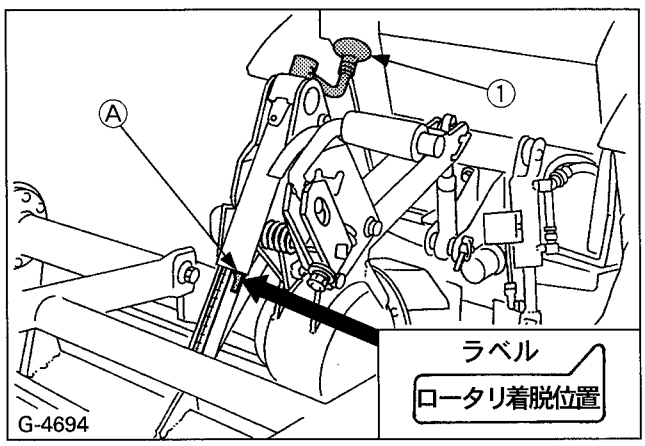
ロータリの後２輪ハンドルを回し，後２輪又はスタンドが地面に接地するように調整してください。



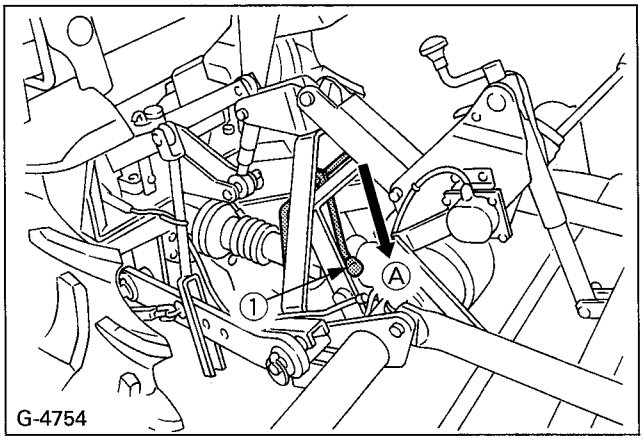
①後２輪ハンドル

【スーパージョイント仕様】

ロータリを吊上げた状態でロータリの後２輪ハンドルを回し，外管の先端を内管に貼ってあるラベルの**“ロータリ着脱位置”**に合せてください。また，着脱レバーをロータリ側(**“脱”**側)に倒します。



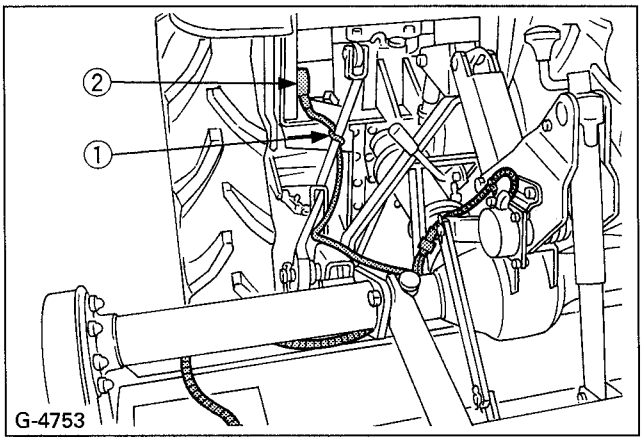
①後２輪ハンドル　　Ⓐ“外管の先端”



①着脱レバー　　Ⓐ“脱”

重　要

＊カバーセンサコネクタをトラクタから取外してください。**【トラクタのMA仕様】**



①コネクタ受け
②カバーセンサコネクタ

＊安全カバー回転止め鎖でユニバーサルジョイントをつらないでください。

補　足

＊長期間保管するときや洗車後は，必ず一度ロータリを取外し
①ロータリ側入力軸，トラクタ側PTO軸
②ユニバーサルジョイントのしゅう動部
③Aフレームのホルダ(ジョイント)内のスプライン部**【S仕様】**
にグリースを塗布してください。

ロータリの上手な使い方

警 告

＊ロータリのユニバーサルジョイントと，耕うん爪に接触すると巻込まれ等の死傷事故のおそれがあります。回転中は近づかないでください。
＊必ず座席に座って，ロータリ作業を行なってください。作業中，トラクタの飛降り，飛乗りは重大事故につながります。
＊ロータリの上に人を乗せたり，運転者以外の人をトラクタに乗せたりしないでください。転落，巻込まれなど，重大事故の原因になります。

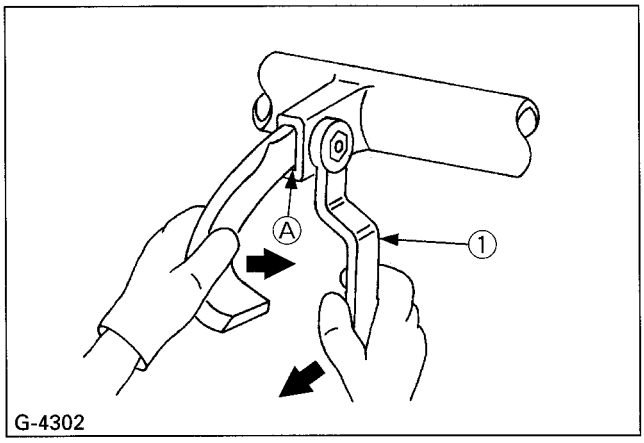
注 意

＊ユニバーサルジョイントの安全カバーを外したままで使用しないでください。傷害事故を引起こすおそれがあります。

なた爪の取付け方

注 意

爪の交換及び増締めするときは，傷害事故を引起すおそれがありますのでつぎのことを守ってください。
＊トラクタを平たんな広い場所に置く。
＊エンジンを止め，駐車ブレーキを掛ける。
＊落下速度調整レバーを，右いっぱいに回し，ロータリの落下を防止する。
＊爪軸の下に木の台などをし，より安全性を確保する。
＊ボルト・ナットを締付ける場合は，めがねレンチが確実に入ったか確認する。

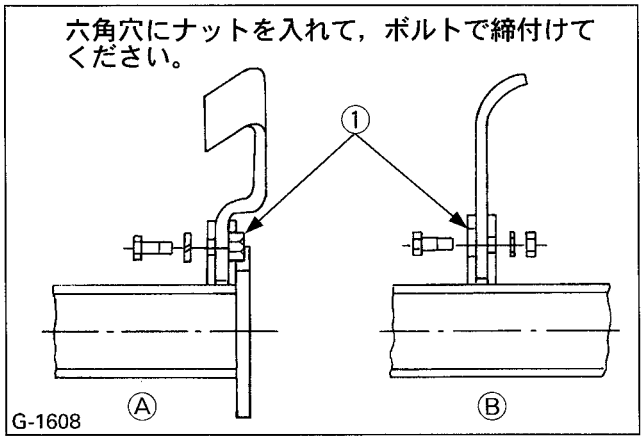


①17×19めがねレンチ　Ⓐ"爪を押さえてこのすき間をなくす"

補 足

＊めがねレンチで，力いっぱい締付けてください。
【締付けトルク7840～8820N・cm(800～900kgf・cm)】
(めがねレンチをナットやボルトの頭に確実に差込み，外れないように注意してください。)

■サイドドライブ仕様



①爪軸ブラケット六角穴　Ⓐ爪軸両端の取付け
Ⓑ爪軸両端以外の取付け
ブラケットの六角穴と逆方向に曲がりがくるように組付ける。

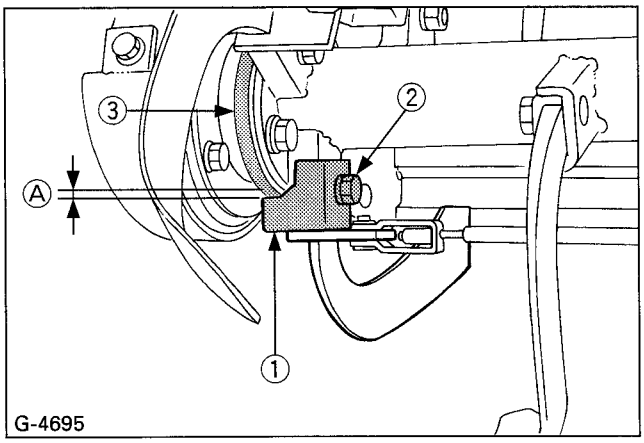
〔サイドドライブロータリ〕

爪軸両端で白ペンキを塗ったブラケット	白ペンキを塗っていないブラケット
332号爪	331号爪

■草切爪

【サイドドライブ仕様(E仕様を除く)】

爪軸両端の331号爪には草切爪(R, L)をそれぞれ銀色の爪取付けボルトで，共締めして取付けてください。爪軸正転方向に対し爪ブラケットの前に草切爪がくるように，またサポート(カバー)のすき間を1㎜程度にして取付けてください。



①草切爪　　Ⓐ“すき間(1㎜程度)”
②爪取付けボルト(銀色)
③サポート(カバー)

重　要

＊草切爪とサポート(カバー)のすき間が大きすぎると草切爪の効果は少なくなります。

■草巻付き防止ワイヤ

【サイドドライブ仕様(E仕様を除く)】

重　要

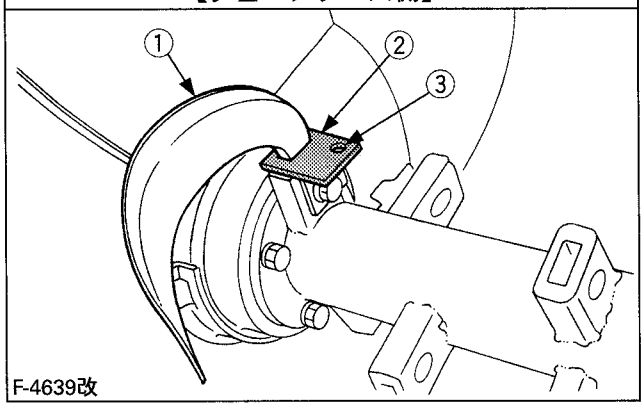
＊石の多いほ場では，草巻付き防止ワイヤの使用を控えてください。
＊ワイヤが損傷した場合は，すみやかにワイヤを新品に交換してください。同時に割ピンも新品に交換してください。但し，被服している樹脂が摩耗もしくは切損しても使用は可能です。
＊耕うん爪は，クボタ純正部品を使用してください。
＊普通爪を使用する場合は，ステーが脱落するので草巻付き防止ワイヤは絶対使用しないでください。
＊カマなどでワイヤを傷つけないでください。

◆草巻付き防止ワイヤの取付け方

❶爪軸両端の爪(計4本)にステーを通し，爪ブラケットに差し込みます。このとき331号爪には草切爪を取付けてください。(**“草切爪”**の項を参照)表は爪軸正転方向に対するステーの丸穴の位置を示します。表中の(　)内は変形爪に取付けるステーの丸穴の位置を示します。

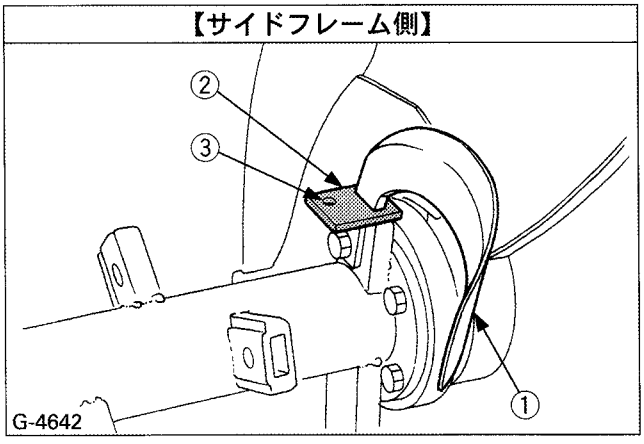
ロータリ形式	チェーンケース側	サイドフレーム側
RSP101, RSP111 RSP121, RSP141	前(前)	後(後)
RSP131, RSP151	前(前)	前(前)
RSP161	前(前)	前(後)

【チェーンケース側】



①331号爪
②ステー
③丸穴
＊増幅爪も同様に取付けます。

【サイドフレーム側】

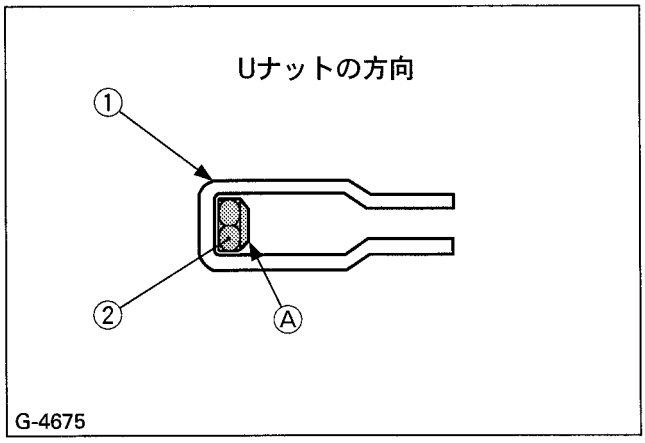


①331号爪
②ステー
③丸穴
＊増幅爪も上表の指示通りに取付けます。

重　要

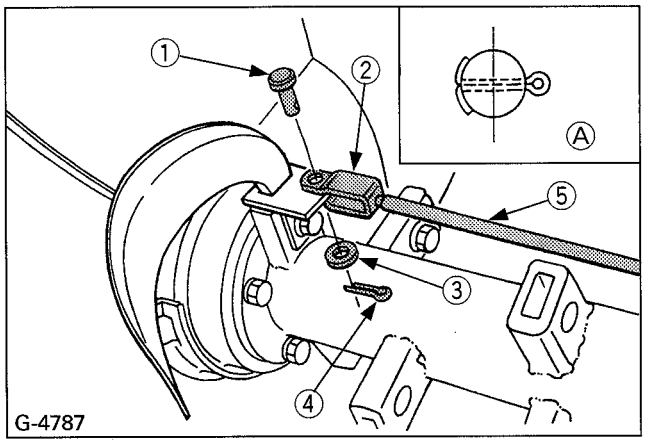
＊ステーの取付け方法を間違うと，ワイヤが取付かなかったり，ワイヤを損傷することがあります。

❷ワイヤのネジ部にロックナットを組付け，U金具の間にUナットを入れワイヤのネジ部に仮組みします。Uナットは図示の方向で組付けてください。



①U金具　　Ⓐ“凸部(フリクションリング)”
②Uナット

❸チェーンケース側のステーに，ワイヤのネジのない側を取付けます。ワイヤのU金具の穴とステーの穴を合わし，上側から頭付きピンを差し込み，下側から平座金を入れ，頭付きピンの穴に割ピンを挿入します。割ピンはいかり割りにしてください。



①頭付きピン　　Ⓐ“割ピンのいかり割り”
②U金具
③平座金
④割りピン
⑤ワイヤ

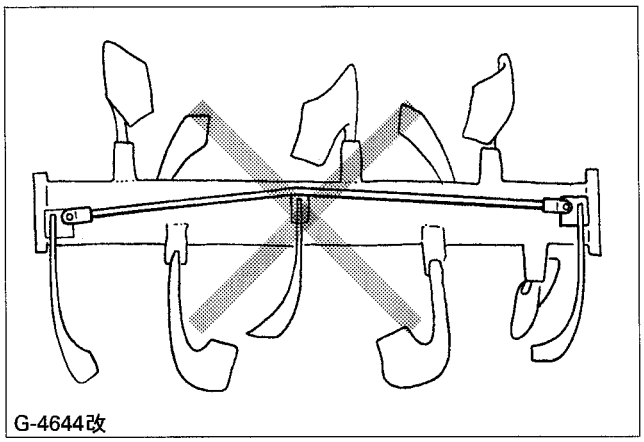
重　要

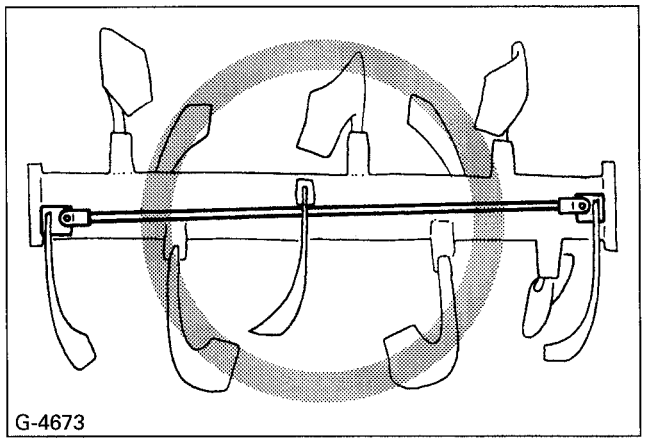
＊頭付きピンを下側から取付けたり，割ピンをいかり割りにしないと，耕うん作業中に割ピンが脱落しワイヤを損傷することがあります。

❹ワイヤが一直線になるようにして，❷で仮組みしたU金具をサイドフレーム側のステーに❸と同じ手順で取付けます。

重　要

＊ワイヤが爪やブラケットに接触していないか確認してください。正しい位置に取付けられている場合，ワイヤはステーの丸穴を結ぶ一直線になります。もし，図のように爪やブラケットに接触したまま取付けますと，ワイヤを損傷するおそれがあります。



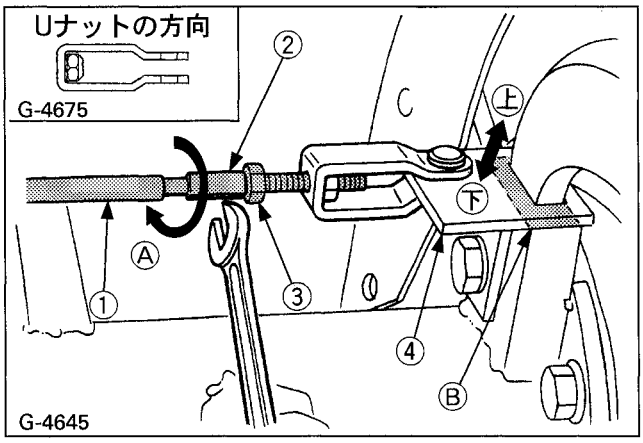


❺４つのステーを次の位置にします。

331号爪側→爪先端方向いっぱいにずらせた位置
(矢印Ⓤ方向)

増幅爪側→爪ブラケット入口面に接触する位置
(矢印Ⓓ方向)

ロックナットを四角かしめ部付近までゆるめ，ワイヤのネジの四角かしめ部に付属のスパナ(M8)をかけ，ねじを締め込んだ後，ロックナットで固定します。



①ワイヤ
②四角かしめ部
③ロックナット
④ステー
Ⓐ“締込む”
Ⓑ“爪ブラケットの入口面”

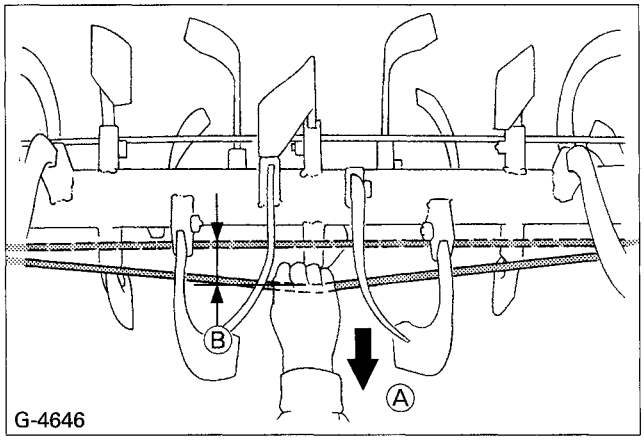
重　要

＊ステーが爪ブラケットの入口面に接触する位置まで下がっているか，確認してください。

＊ワイヤの調整はロックナットをゆるめてから，必ず付属のスパナ(M8)で行なってください。ロックした状態での増し締めや他の工具を使用しますと，破損するおそれがあります。

＊ワイヤの調整は必ず❻の手順でたわみ量を確認しながら行なってください。そのとき締付トルクが880N·cm(90kgf·cm)(参考値)をこえないようにしてください。

❻爪軸の中央付近で，ワイヤを爪軸に対して直角方向に約98N(10kgf)の力で引いたとき，ワイヤが元の位置から1.5cmたわむ程度に調整してください。



Ⓐ“爪軸に対し直角方向に約98N(10kgf)の力で引く”
Ⓑたわみ1.5cm

注　意

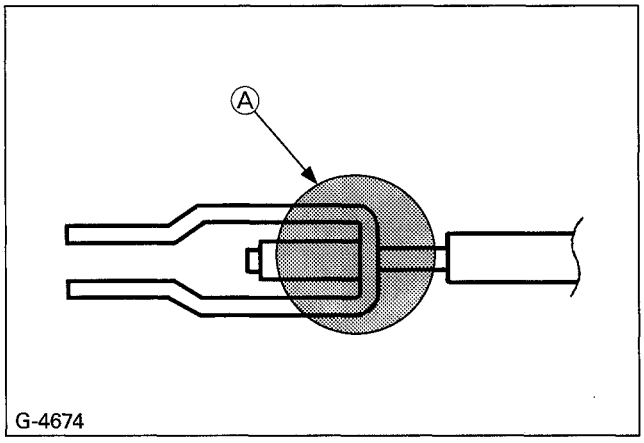
傷害事故防止のため，草巻付き防止ワイヤの調整時は次の事を守ってください。

＊ワイヤを引くときはゆっくり引き，ワイヤに体重をかけて引かないでください。

重　要

＊耕うん前にワイヤがゆるんでいないか確認してください。ゆるんでいる場合は，❺❻の手順でワイヤを調整してください。ワイヤを調整するときは，ネジ部に付着した土などを洗い流し，ネジ部に注油してください。ゆるんだまま使用すると，草巻付き防止ワイヤの効果が少なくなり，ワイヤを損傷するおそれがあります。

＊ロータリの使用後，特に長時間使用しないときは，ワイヤの図示箇所を洗浄後注油してください。



Ⓐ“注油”

補　足

＊ワイヤの調整時や着脱時に，ある程度ワイヤが張ってくると，スパナで締めてもワイヤのネジが元に戻ることがあります。そのときは，ロックナットでロックしながら調整してください。

◆草巻付き防止ワイヤの取外し方

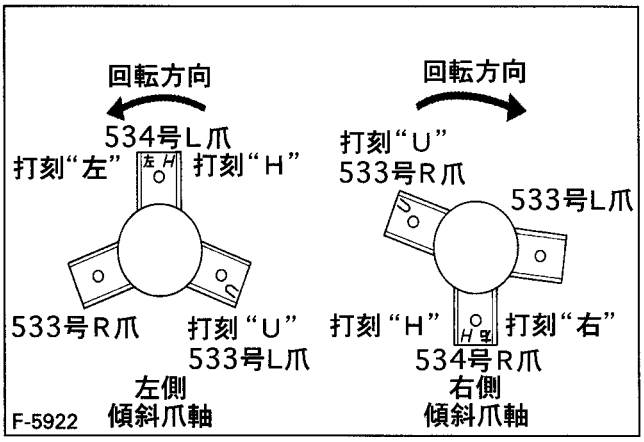
取付け方の逆の手順で行なってください。

■センタドライブ仕様

◆傾斜爪軸

(1)**"H"**の刻印のあるブラケットには，534号L・R爪を内向きに取付けてください。

(2)**"U"**の刻印のあるブラケットには，533号L・R爪を下図のように取付けてください。



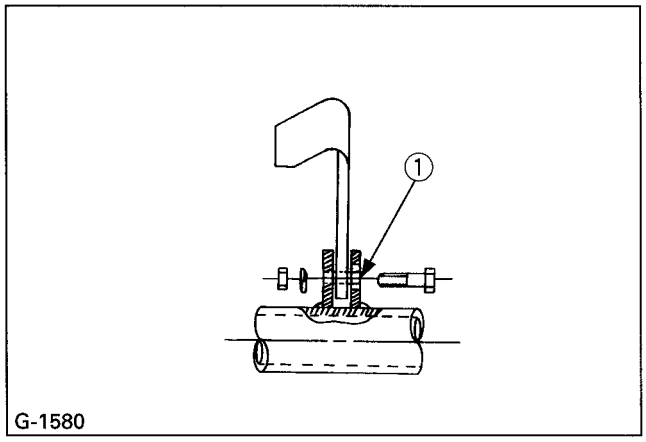
(3)残りのブラケットには，533号L・R爪を上図のように取付けてください。

◆爪軸

(1)321号爪を取付けます。

(2)ブラケットの六角穴と逆方向に，曲がりがくるようにして取付けてください。

(3)ボルトは六角穴側より入れ，反対側よりバネ座金を入れ，ナットで締付けてください。



①六角穴

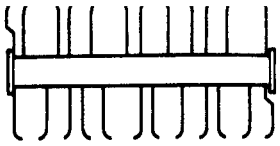
補　足

＊爪を抜いて作業すると，爪のバランスが狂い，振動や騒音がでることがありますので，ご注意ください。

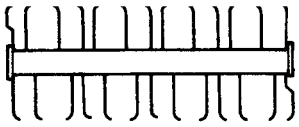
＊耕うん爪は，クボタ純正部品を使用してください。

■均平耕法の配列

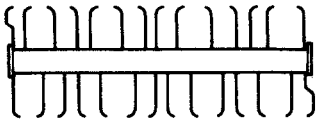
◆RSP101



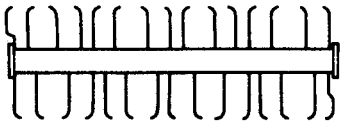
◆RSP111



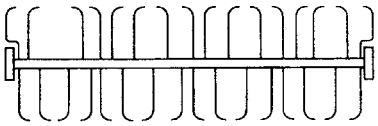
◆RSP121



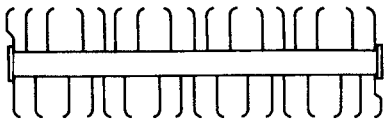
◆RSP131



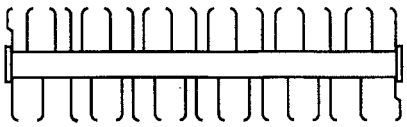
◆RSP141



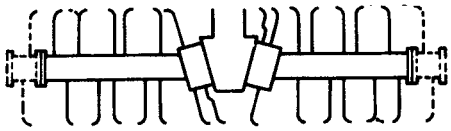
◆RSP151



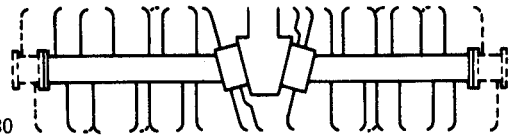
◆RSP161

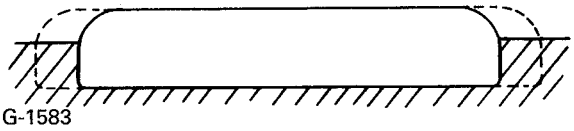


◆RKP101



◆RKP121



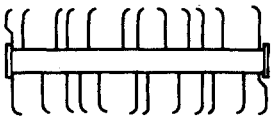


（点線は延長爪軸付きの場合を示す。）

■1つ盛り耕法の配列

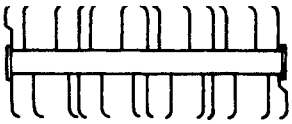
爪軸中央を基準とし他の爪はすべて内向きになるように取付けてください。
このとき，ロータリカバーを上げて，カバーが耕うんした土壌に当らないようにします。

◆RSP101



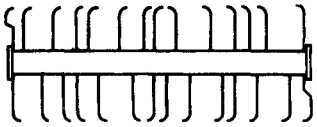
F-5981改

◆RSP111



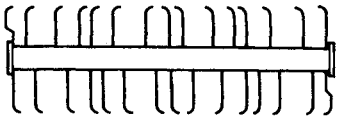
F-5982改

◆RSP121



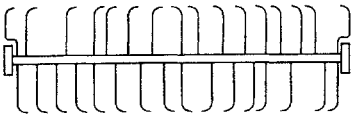
F-5998改

◆RSP131



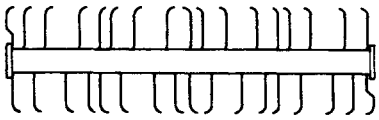
F-5999改

◆RSP141



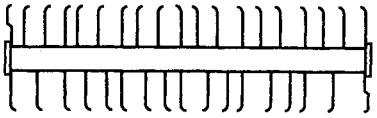
F-6995

◆RSP151



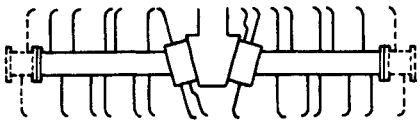
F-6000改

◆RSP161



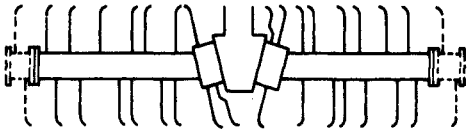
F-7249

◆RKP101

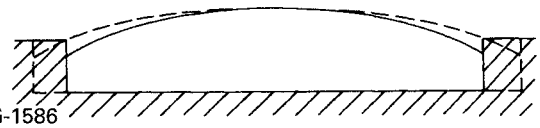


F-6001

◆RKP121



F-6002

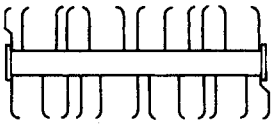


G-1586

■2つ盛り耕法の配列

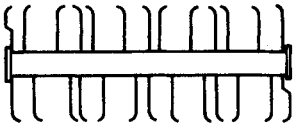
〔畝立て作業（1連畝立て）の配列〕
爪の配列は下図のように取付けてください。
このとき，ロータリカバーを上げて，カバーが耕うんした土壌に当らないようにします。

◆RSP101



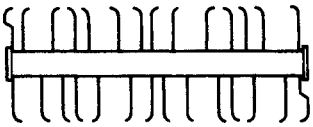
F-6003改

◆RSP111



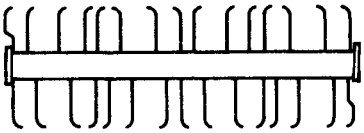
F-6004改

◆RSP121



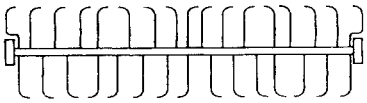
F-6005改

◆RSP131



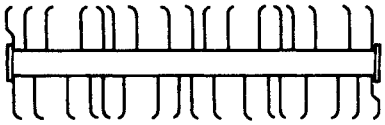
F-6006改

◆RSP141



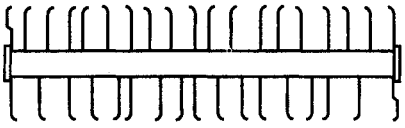
F-6996

◆RSP151



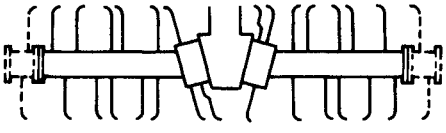
F-6007改

◆RSP161



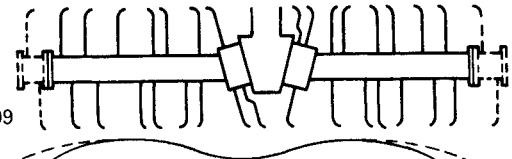
F-7250

◆RKP101

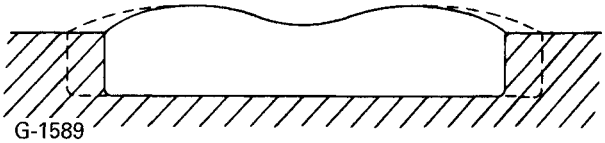


F-6008

◆RKP121



F-6009



G-1589

ロータリの調整

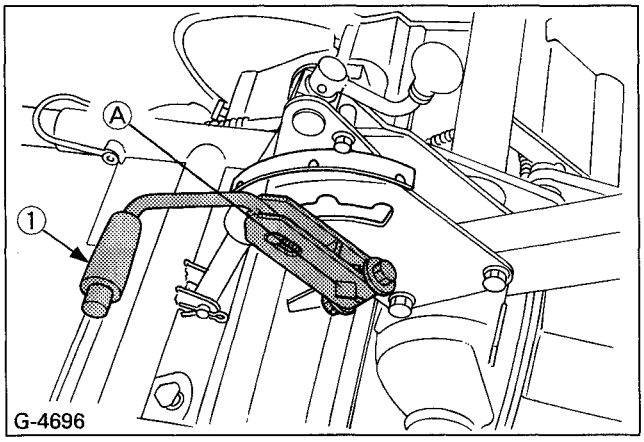
ロータリカバーの調整

■ニューフラップカバーの使用法
【サイドドライブ仕様】

ニューフラップカバーは，３段階の調整が可能です。
作業に合わせて使い分けてください。

一般耕うん(耕深約８㎝～15㎝)・培土作業
ロータリの着脱・浅耕し・代かき作業時以外

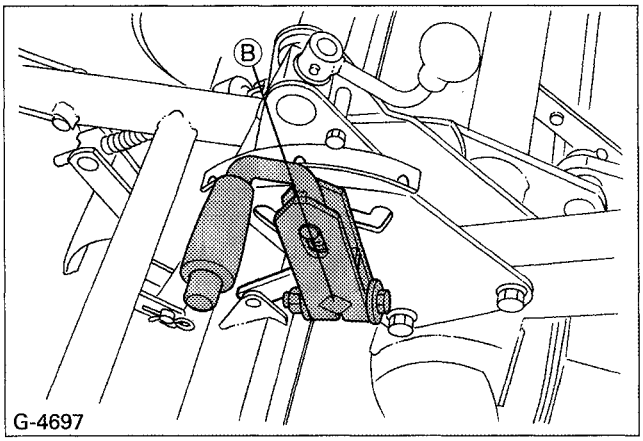
―― **“耕うん・培土”**の位置



①スライドレバー　　Ⓐ“耕うん・培土”

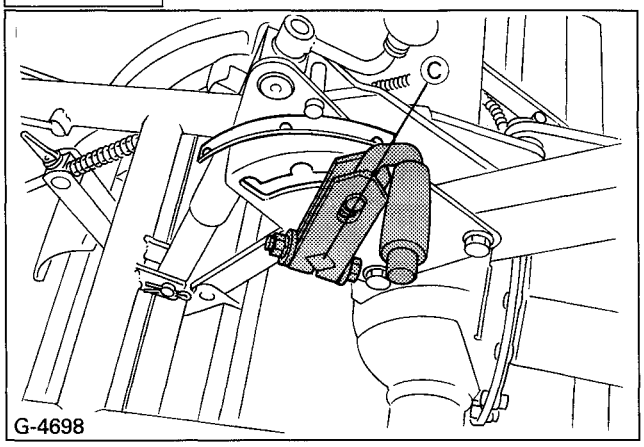
浅耕し耕うん作業(耕深約８㎝未満)

―― **“浅耕し”**の位置



Ⓑ“浅耕し”

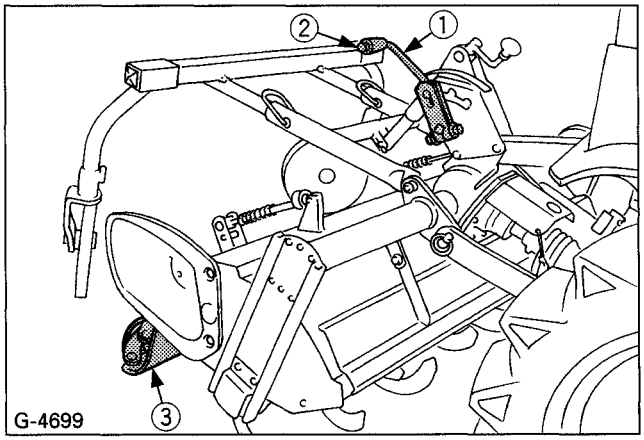
代かき作業 ―― **“代かき”**の位置



Ⓒ“代かき”

補　足

＊土の附着によりスライドレバーの操作が重くなることがあります。その場合はロータリカバー２の下部の土を落とし，ピンを押しながら，レバーを前後方向に操作してください。



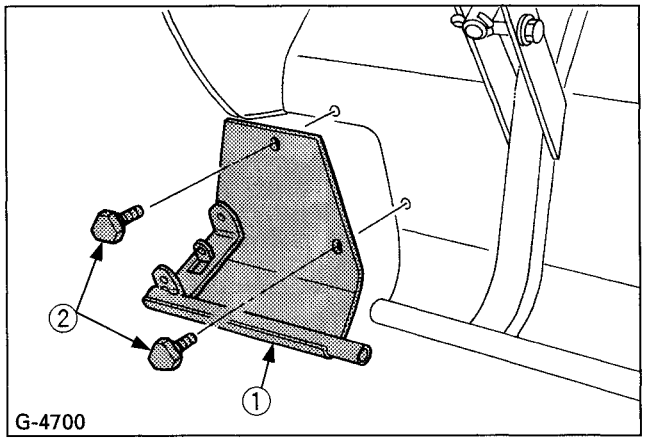
①スライドレバー
②ピン
③ロータリカバー2

重　要

＊作業終了後やロータリの着脱時には，ロータリカバー2が破損することがあるので，スライドレバーを**“耕うん・培土”**Ⓐ位置にセットしてください。

■補助カバーR・Lの取外し方

後２輪併用で枕地を少なくする，又は片培土作業をするため，補助カバーを取外す場合は，ノブボルトを取外し，補助カバーを外してください。



①補助カバー
②ノブボルト(注，RSP111とRSP121は1個)(E仕様はボルト)

補　足

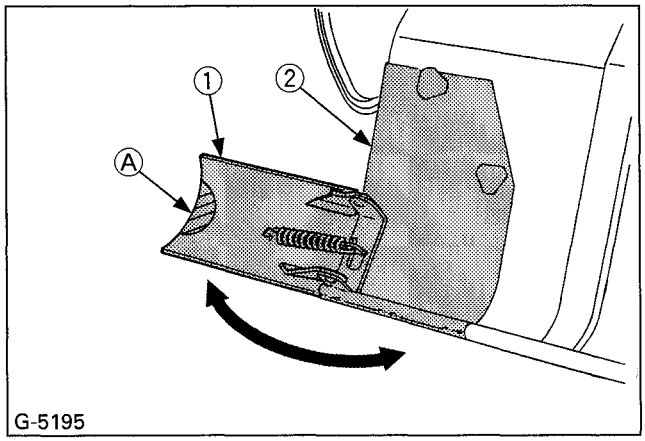
＊補助カバーを取外したとき，ノブボルト又はボルトを紛失しないように保管しておいてください。

■延長カバーの使用法【Y仕様】

注　意

＊延長カバーの開閉時，指や手を挟まれないように注意してください。傷害事故を引起すおそれがあります。

延長カバーを使用すると耕うん跡がきれいに仕上ります。延長カバーの開閉は先端の曲面中央部をつかみ行なってください。



①延長カバー　　Ⓐ“先端の曲面中央部”
②補助カバー

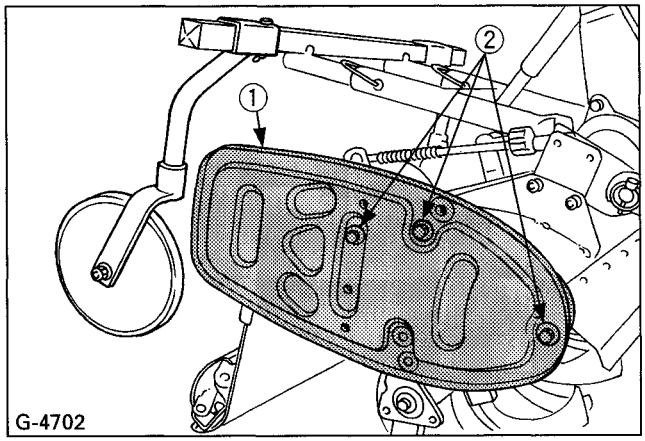
■サイドカバーの上手な使い方

注　意

＊サイドカバーを外した状態でロータリを使用しないでください。傷害事故を引起すおそれがあります。

【センタドライブ仕様】

石の多いほ場・草地で作業を行なう場合は，左右のサイドカバーを上に上げて使用してください。



①サイドカバー
②ボルト

【サイドドライブ仕様】

サイドカバーの調整はできません。

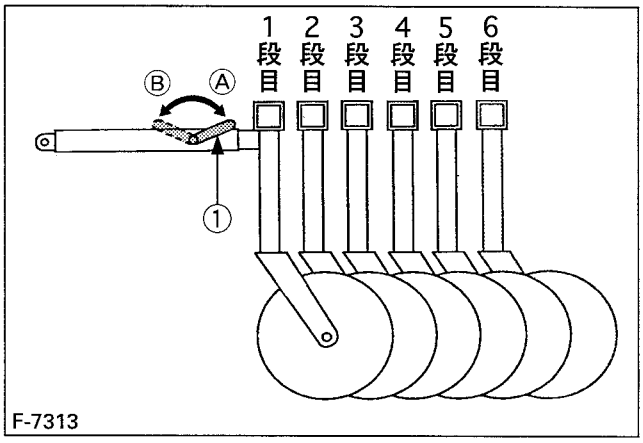
後２輪の調整(後２輪無仕様は別売)

後２輪ホルダは前後方向に６段階，上下方向に２段階の調整ができますので，作業に合せて調整してください。
作業により次のように調整してください。

作業内容		スライドレバー位置(サイドドライブ仕様)	後2輪ホルダの調整	
			前後調整	上下調整
培土作業		耕うん・培土	１段目	上
一般耕うん	補助カバー付	耕うん・培土	3~4段目	上
	補助カバー無	耕うん・培土	１段目	上
浅耕し(補助カバー付)		浅耕し	５段目	上
代かき(補助カバー付)		代かき	６段目	下
ロータリを着脱する場合		耕うん・培土	６段目	上

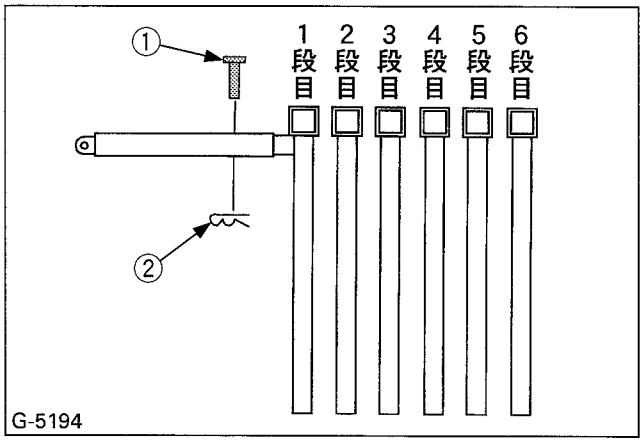
■後２輪ホルダの前後調整

ロックレバーを**“解除”**にしてから後２輪ホルダを前後させます。調整後は**“ロック”**の位置にしてください。



①ロックレバー　　Ⓐ“ロック”
Ⓑ“解除”

【後２輪無仕様】



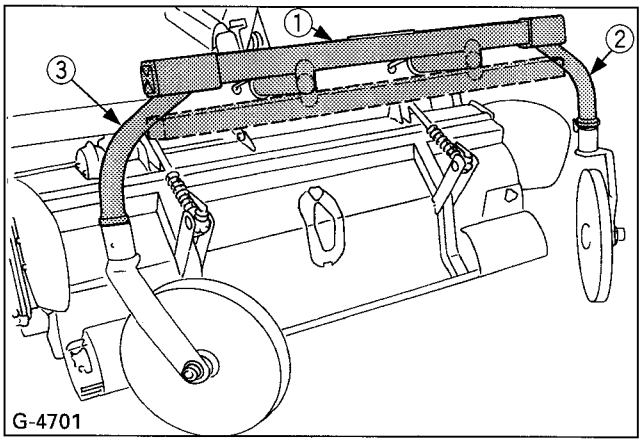
①アタマツキピン　　②スナップピン

補　足

＊水田(湿田)で，トラクタの性能を十分発揮させるため，後２輪はロータリカバー2を上下させて接触しない範囲で，接近させて使用してください。

■後２輪ホルダの上下調整

後２輪装置は，乾田・湿田別によって，後２輪ホルダの差換えで取付け高さが変えられます。
湿田，代掻き耕うんの場合は下側に取付け，乾田耕うんの場合は上側に取付けてください。
差替えたときは，後２輪ポスト左・右も取付けを変更してください。



①後２輪ホルダ
②後２輪ポスト(右)
③後２輪ポスト(左)

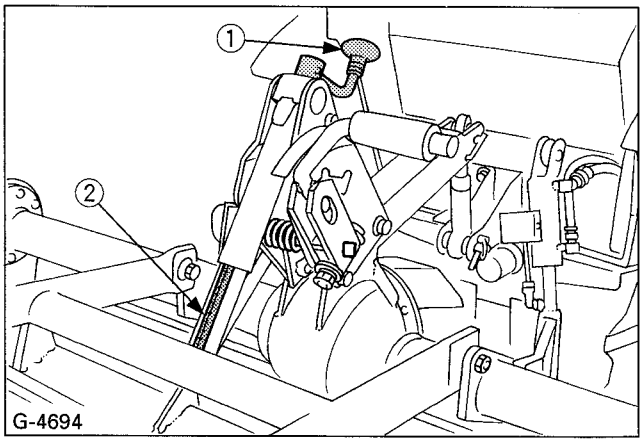
■後２輪ハンドルによる耕深調整

(トラクタのMA仕様(耕深制御時)除く)

注　意

＊トラクタを移動させながらの耕深調整は，しないでください。傷害事故を引起すおそれがあります。

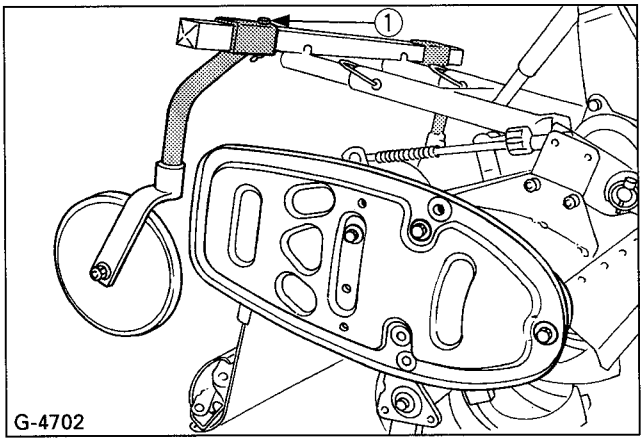
後２輪ハンドルを回すことにより，耕深を自由に選ぶことができます。また耕うん深さ調整の目安として，耕深ラベルの目盛りをご使用ください。



①後２輪ハンドル
②耕深ラベル

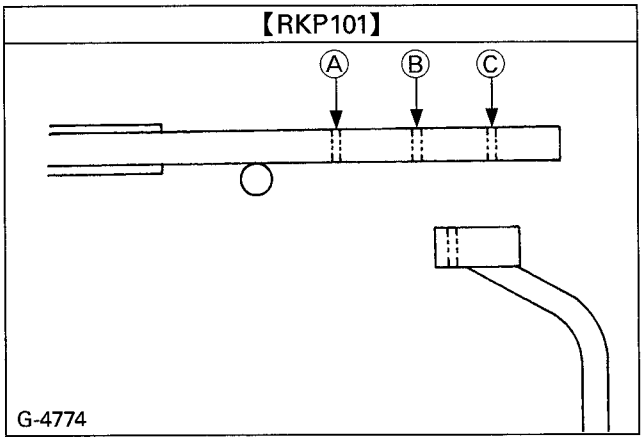
◆後２輪幅のセット位置【センタドライブ仕様】

延長爪軸200または400を取付けたときは，それぞれ耕幅に合せて，後２輪を外側に移動させてください。



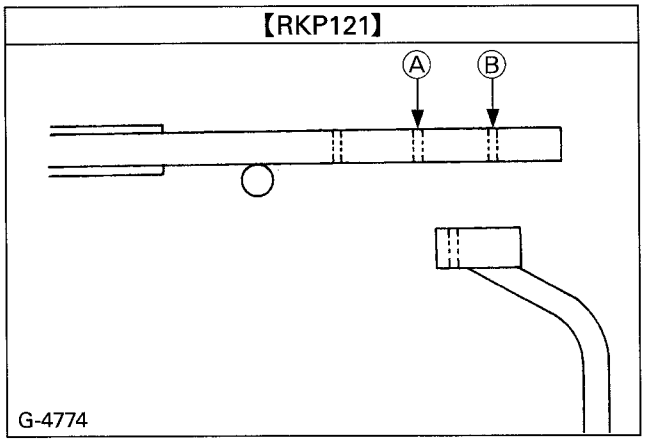
①頭付きピン

【RKP101】



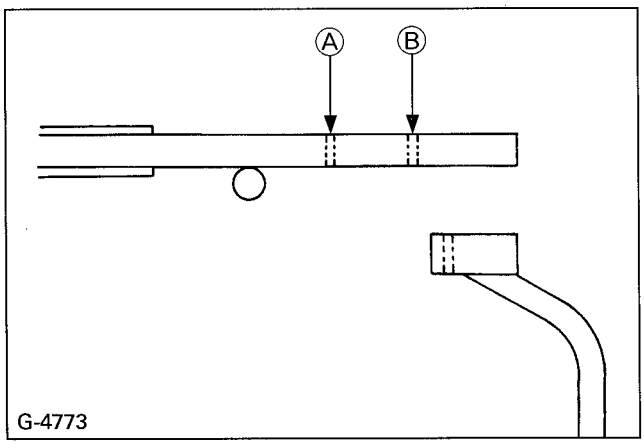
Ⓐ“延長なし”
Ⓑ“延長爪軸200装着時”
Ⓒ“延長爪軸400装着時”

【RKP121】



Ⓐ“延長なし”
Ⓑ“延長爪軸200装着時”

◆後２輪幅のセット位置【サイドドライブ仕様】



ロータリ型式	後２輪ポストセット位置
RSP101 RSP121 RSP141	Ⓐ
RSP111 RSP131 RSP151	Ⓑ

注　意

＊後２輪を使用しない場合は取外してください。後２輪を上方に反転させての耕うん・移動は傷害事故を引起すおそれがあります。

スプリングロックの調整【E仕様を除く】

注 意

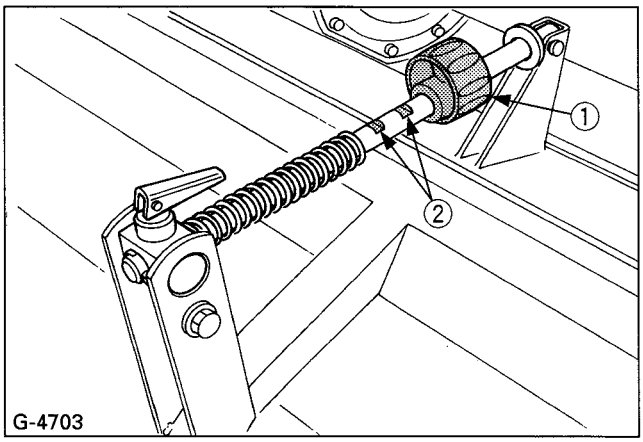
＊スプリングロックの操作は必ずロータリを地上に降ろし，エンジンを停止してから行なってください。ロータリが急降下し傷害事故を引起こすおそれがあります。

＊スプリングロックを操作するときは，必ずスプリングロックの握り部だけを持って操作してください。傷害事故を引起すおそれがあります。

＊スプリングが押付けられた状態でスプリングロックを操作するときは，必ず最後までグリップを握った状態で操作してください。途中で手をはなすと，グリップが上方へいきおいよく飛出し危険です。

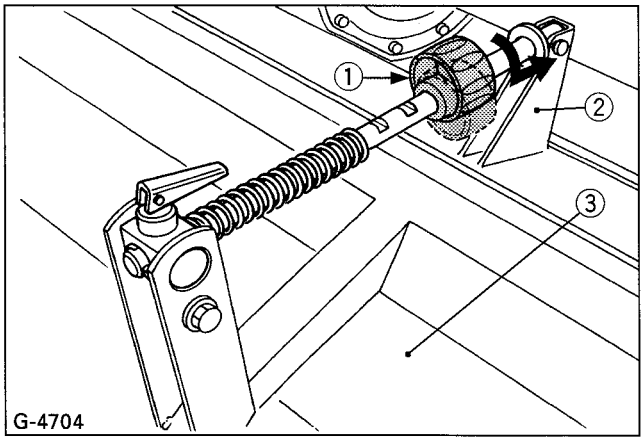
◆スプリングロックの位置

接地圧条件に合わせてロッド溝をお選びください。（前から１番目，２番目……とセット位置を後方に下げるにつれ，押付力は強くなります。）
通常は前から１番目の溝にセットしてください。



①スプリングロック　　②ロッド溝

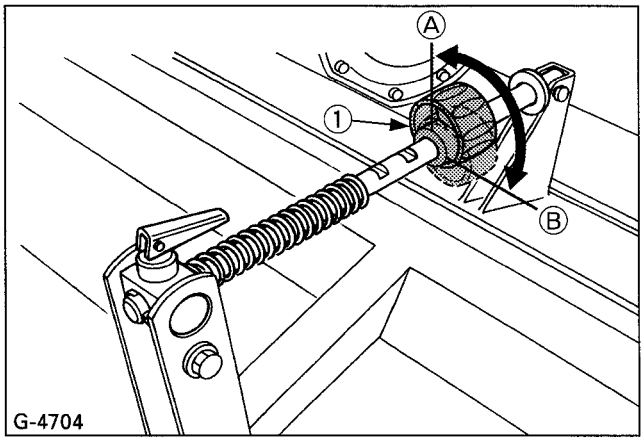
特殊な作業，爪の交換等ロータリカバー２を持上げて使用する場合は，溝から外しロッド受け部まで移動させてください。



①スプリングロック　　③ロータリカバー２
②ロッド受け

◆スプリングロックの位置決め

❶スプリングロックを約90度回し、ロックを解除させます。



①スプリングロック　　Ⓐ“ロック”
Ⓑ“解除”

❷その状態でスプリングロックを希望位置まで移動させます。

❸スプリングロックを元の位置まで回し、少し上下に摺動させて確実にロックします。（カチッと音が鳴り、上下に動かない位置がロック位置です。）

補 足

＊ロータリを長期に使用しないとき，あるいは操作が重くなったときはよく洗浄し，土を完全に取除いた後，しゅう動部に注油してください。

重 要

＊ロータリカバー２を持上げるときは，当り位置以上に持上げないでください。オート用センサが破損することがあります。

＊オート作業時はスプリングロックを前から１番目の溝にセットしてください。
セット位置を後方に下げるとオートが作動しにくくなります。

スナップピンの調整【E仕様】

注 意

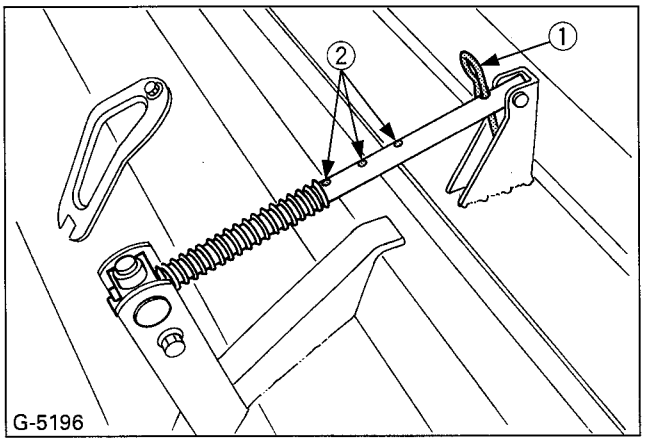
＊スナップピンの操作は必ずロータリを地上に降ろし，エンジンを停止してから行なってください。ロータリが急降下し傷害事故を引起すおそれがあります。

＊スプリングが押付けられた状態でスナップピンを操作するときは，必ずロータリカバーを持上げ，スプリングがフリーの状態で操作してください。スナップピンが飛び危険です。

◆スナップピンの位置

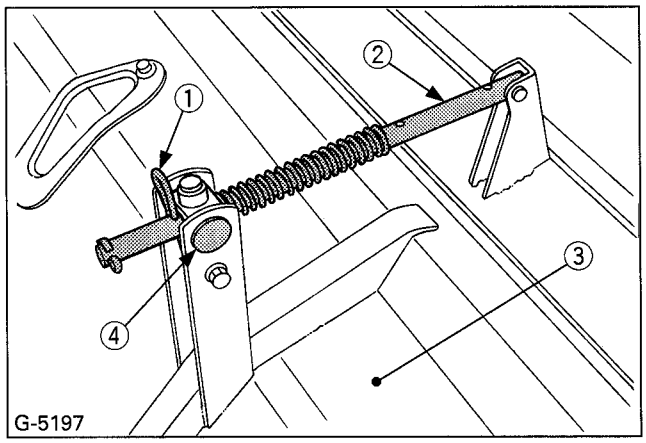
ロータリカバーの接地圧条件に合わせてロッド穴をお選びください。（前から１番目，２番目……とセット位置を後方に下げるにつれ，押付力は強くなります。）

通常は前から１番目の穴にセットしてください。



①スナップピン
②ロッド穴

特殊な作業，爪の交換等ロータリカバー２を上げて使用する場合は，ロータリカバー２を必要高さ持ち上げ，スペーサの後方穴にスナップピンをセットしてください。



①スナップピン
②ロッド
③ロータリカバー２
④スペーサ

重 要

＊ロータリカバー２を持上げるときは，当り位置以上に持上げないでください。オート用センサが破損することがあります。

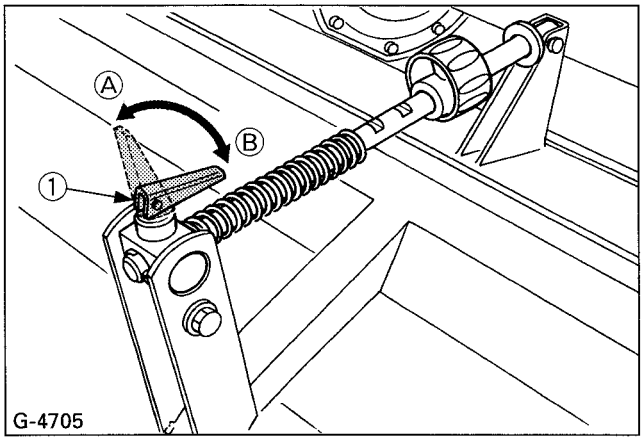
＊オート作業時はスナップピンを前から１番目の穴にセットしてください。
セット位置を後方に下げるとオートが作動しにくくなります。

オートハンガの調整(E仕様を除く)

注 意

＊オートハンガの操作は，傷害事故を引起すおそれがありますので，ロータリを降ろしエンジンを停止してから行なってください。

耕うん爪の点検・交換等を行なう場合，オートハンガレバーを左右２箇所とも**“保持”**(自動ロック)の位置にし，ロータリカバー２を持上げると，自動的にロータリカバー２がロックされます。



①オートハンガレバー　Ⓐ“保持(自動ロック)”
Ⓑ“解除”

重 要

＊耕深制御(MCオート)使用時は：
“解除”位置にし、ロータリカバー２をフリーにしてください。
＊E耕深制御(Eオート)使用時は：
ロータリカバー２は下から**“４段目以上”**に保持してください。
＊**“保持”**にしたときは必ず，左右のオートハンガのレバーが**“保持”**位置になっているか又，ピンが確実に入っているか確認してください。

補 足

＊ロータリを長期に使用しないとき，あるいは操作が重くなったときはよく洗浄し，土を完全に取除いた後，レバー部とピン部に十分注油してください。

畝立機の取付け

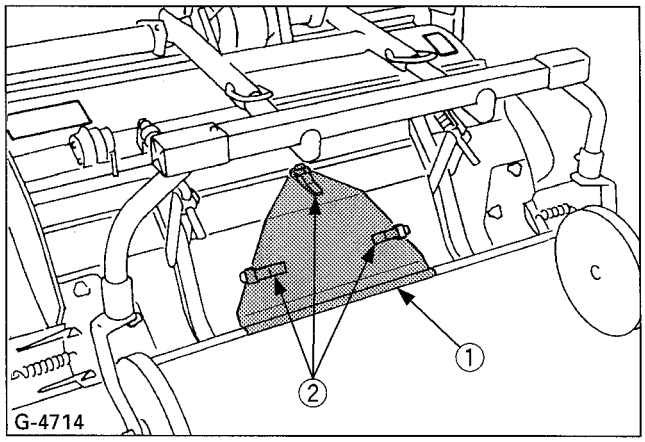
注 意

＊畝立機の取付けは，必ずロータリを地上に近い位置に降ろし，エンジンを停止してから行なってください。
＊畝立機を使用しない場合は取外してください。
畝立機を上方に反転させての耕うん・移動は傷害事故を引起すおそれがあります。
＊畝立機を使用しない場合，Vカバーまたはカバーフタを外したままでロータリを使用しないでください。傷害事故を引起すおそれがあります。

畝立機は，畝立て金具の穴に下から差込み，作業に応じて取付け高さを変え，ボルトで取付けてください。
(畝立機と畝立て金具又は畝立反転金具は別売品)

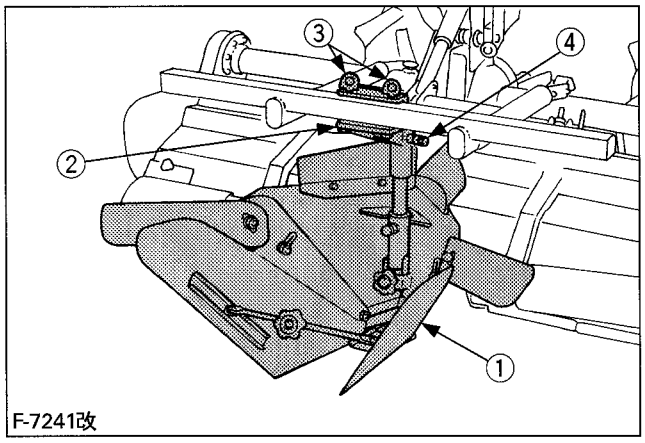
■Vカバー仕様の場合

❶爪の配列は２つ盛り耕法の配列にします。(**“２つ盛り耕法の配列”**の項を参照)
❷後２輪は取外す。又は，スタンドは格納します。
❸後２輪ホルダは，前後調整の１段目の位置(**“後２輪ホルダの前後調整”**の項を参照)にし，上下調整の上側(**“後２輪ホルダの上下調整”**の項を参照)にセットしてください。
❹Vカバーを下方向に動かして取外します。



①Vカバー
②クリップ

❺畝立機に畝立金具をボルトで取付けます。
❻畝立金具を後２輪ホルダにピンでセットしてください。



F-7241改

①畝立機
②畝立金具
③ピン
④ボルト

❼スライドレバー**【サイドドライブ仕様】**を操作してロータリカバー2を畝立機にできるだけ接近する位置にロックしてください。（通常は**“耕うん・培土”**位置です。）

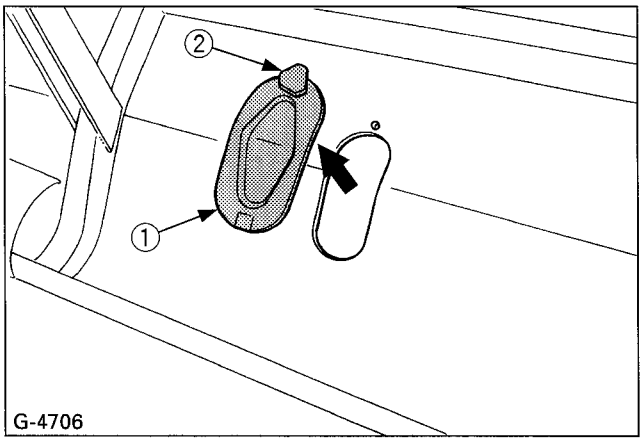
重　要

＊RSP101形ロータリに延長カバーを装着されている場合は，延長カバーを取外すか，または広げてください。

❽ロータリカバー押えバネを，フリーにするか又は少し縮めて，ロータリカバーを軽く地面に接触させてください。

■標準仕様の場合

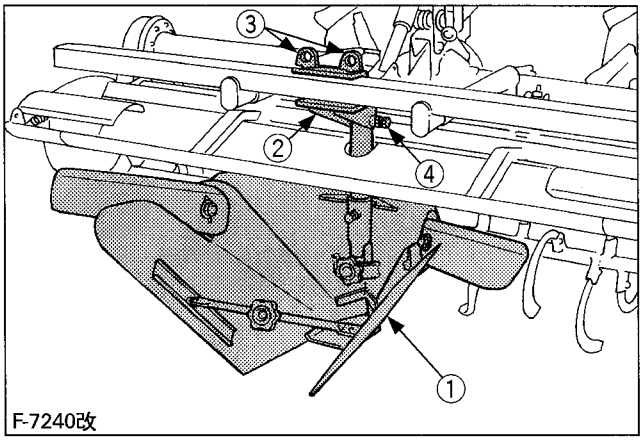
❶爪の配列は２つ盛り耕法の配列にします。（**“２つ盛り耕法の配列”**の項を参照）
❷後２輪は取外す。又は，スタンドは格納します。
❸後２輪ホルダは，前後調整の１段目の位置（**“後２輪ホルダの前後調整”**の項を参照）にし，上下調整の上側（**“後２輪ホルダの上下調整”**の項を参照）にセットしてください。
❹ノブボルト又はボルト**【E仕様】**をゆるめ，カバーフタを取外します。取外したカバーフタとノブボルト又はボルト**【E仕様】**は，紛失しないように工具箱に入れておきます。



G-4706

①カバーフタ
②ノブボルト（E仕様はボルト）

❺畝立金具を後２輪ホルダにピンでセットしてください。
❻スライドレバー**【サイドドライブ仕様】**を操作して畝立機の支柱が長穴に合う位置にカバーを動かしてください。（通常は**“耕うん・培土”**位置です。）
❼オートハンガを**“保持（自動ロック）”**にし，ロータリカバーを上げます。
❽ロータリカバーの下側から畝立機を取付け，ボルトで締付けてください。



F-7240改

①畝立機　　③ピン
②畝立金具　　④ボルト

❾ロータリカバーを少し持上げオートハンガを解除し畝立機の上に乗せます。

逆転PTOの使用方法

(1)使用できる作業機
＊メーカ指定のロータリに限ります。
(2)トラクタの逆転PTOを使用して次の作業が行なえます。
①軟弱地での土寄せ作業。
代かき作業などを行なう軟弱なほ場で，泥などが盛上がっている場合，逆転PTOを使用して前進しながら土寄せを行なうと，効果があります。このとき，エンジン回転数を低速(1500回転以下)で作業すると泥飛びも少なくなります。
②爪軸に巻付いた草を除去する。
耕うん中に草などが巻付いた場合，ロータリを持上げて，逆転で数分空転させると，草の巻付きがゆるみ取りやすくなります。

重 要

＊メーカ指定以外のロータリを使用すると，作業機の故障の原因となります。
＊逆転PTOを使用して，次の作業は行なわないでください。ロータリ破損の原因になります。
①逆転耕うん作業
②未耕地や石の多いほ場での土寄せ作業
③ロータリの爪を逆に取付けて行なう耕うん作業

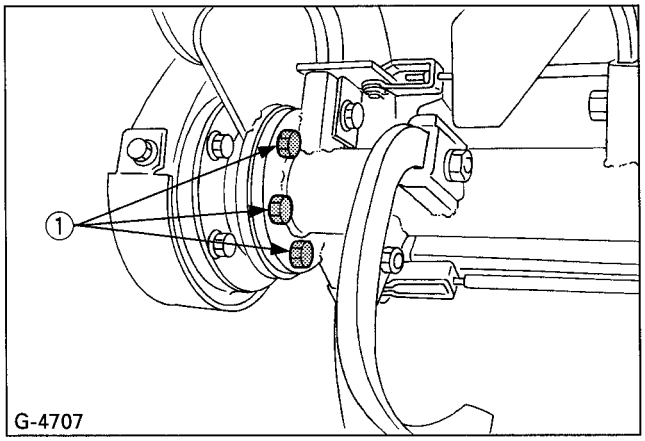
爪軸交換のしかた

注 意

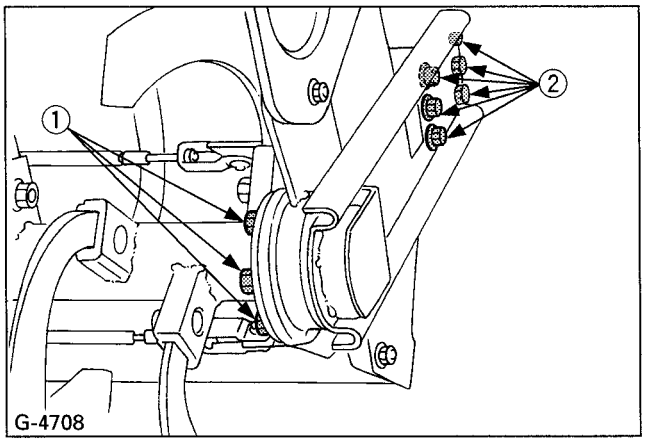
傷害事故の防止のため，爪軸交換をする場合，次の事を守ってください。
＊トラクタを平たんな広い場所に置く。
＊エンジンを止め，駐車ブレーキを掛ける。
＊ロータリを持上げ，落下速度調整レバーを右いっぱいに回し，油圧をロックします。

【サイドドライブ仕様】

❶チェーンケース側爪軸取付けボルト(４本)，及びサイドフレーム側爪軸取付けボルト(４本)をゆるめます。



①ボルト



①ボルト
②ボルトナット

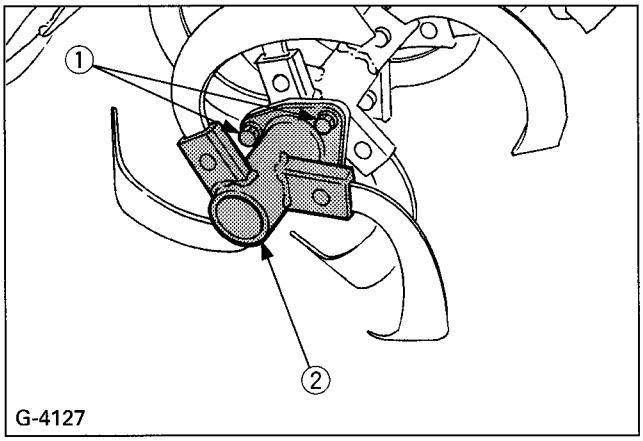
❷サイドフレームの取付けボルト(６本)を外れない程度までゆるめます。
❸油圧レバーを下げ落下速度調整レバーを少し左に回し，耕うん爪が水平地面上に着くまでゆっくりと降ろします。
❹爪軸取付けボルトを外し，爪軸を外します。
❺このとき，別売りの爪軸交換スタンドアッシ(品番98606－48430)を使用すると，より簡単です。

補　足

＊爪軸は，爪軸端部のブラケットの**"左"**の刻印がチェーンケース側にくるように取付けてください。

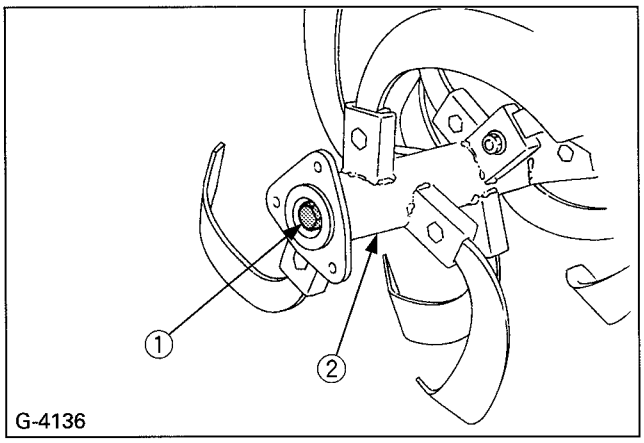
【センタドライブ仕様】

❶延長爪軸付ロータリは，延長爪軸を取外してください。(左右各３本)



①ボルト
②延長爪軸

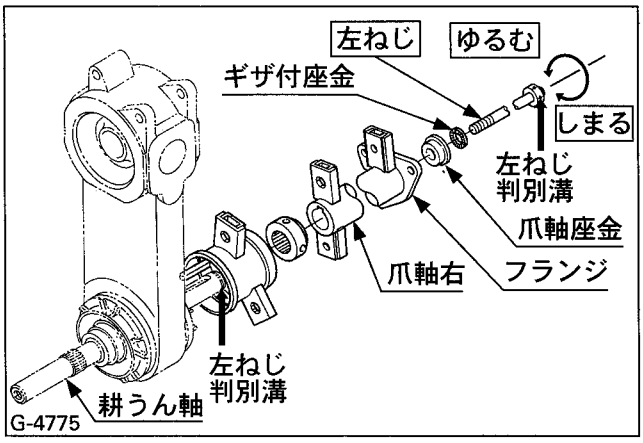
❷爪軸ボルト(左右各１本)を外して，標準爪軸を引抜き，交換爪軸に取換えてください。



①爪軸ボルト
②標準爪軸

補　足

＊右側の爪軸ボルトは左ねじです。



補　足

＊爪軸の左・右はフランジに溶接しているブラケットに各々の刻印があります。

重　要

＊取付けは，外したボルト・ナット，ゆるめたボルトが作業中にゆるまないように，確実に締付けてください。

作業前の点検について(日常点検)

警 告

＊安全カバー類を外した状態でロータリを使用しないでください。又，紛失したり，損傷した場合，交換してください。　巻込まれや，切傷事故の原因になります。

点検箇所

故障を未然に防ぐには，機械の状態をいつもよく知っておくことが大切です。
日常点検は毎日欠かさず行なってください。
※印は，別途作業要領が説明してあります。

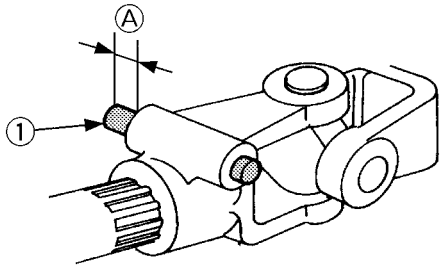
■点検は次の順序で実施してください。

(1)前日，前使用時の異常箇所。
(2)ロータリの点検ポイント。
　＊爪及び爪軸取付けボルトのゆるみ
　＊ロータリ各部のボルト・ナットのゆるみ
　＊ユニバーサルジョイントのロックピンの確認 …… ※1
　＊油もれ

点検のしかた

1 ユニバーサルジョイントのロックピンの確認

ロックピンが正確に溝にはまったかどうかの確認は，ピンの頭が7㎜以上出ているかどうかを調べてください。



G-1574

①ロックピン　　Ⓐ“7㎜以上出ているのが正常です”

ロータリの簡単な手入れと処置

定期点検箇所一覧表

次の定期点検表に従って，必ず定期点検を実施してください。

注 意

傷害事故の防止のため，点検整備をする場合，次の事を守ってください。
＊トラクタを平たんな広い場所に置く。
＊エンジンを止め，駐車ブレーキを掛ける。
＊ロータリの落下防止のため，落下速度調整レバーを右いっぱいに回す。
＊爪軸の下に木の台などをし，より安全性を確保する。

No	点検項目		アワーメータの表示時間						参照ページ
			50	100	150	200	250	300	
1	ギヤーケース **【サイドドライブ仕様】**	油量点検		○	○	○	○		29
		オイル交換	◎					○	
2	チェーンケース **【サイドドライブ仕様】**	油量点検		○	○	○	○		30
		オイル交換	◎					○	
3	ロータリケース **【センタドライブ仕様】**	油量点検		○	○	○	○		30
		オイル交換	◎					○	
4	グリースの注入 ・ユニバーサルジョイントしゅう動・回動部 ・後2輪**【B仕様】** ・ホルダ(ジョイント)内スプライン部**【S仕様】** ・ロータリ入力軸**【S仕様】**		○	○	○	○	○	○	31, 32
	注油 ・スプリングロックしゅう動部**【E仕様を除く】** ・オートハンガしゅう動，回動部**【E仕様を除く】** ・草巻付き防止ワイヤU金具内部 **【サイドドライブ仕様(E仕様を除く)】** ・内管(後2輪調整ネジ部) ・スライドレバー部**【サイドドライブ仕様】** ・ユニバーサルジョイントロックピン部								
5	グリースの交換 ・爪軸ベアリングケース**【サイドドライブ仕様】**				○			○	31

◎印はならし運転時の50時間使用後に必ず行ってください。

給油一覧表

給油（水）項目	容量（L）	使用オイル
ギヤーケースオイル **【サイドドライブ仕様】**	RSP101, RSP111… } 1.4 RSP121, RSP131… } RSP141… } RSP151… } 1.6 RSP161… }	クボタ純オイルM90
チェーンケースオイル **【サイドドライブ仕様】**	1.2	
ロータリケースオイル **【センタドライブ仕様】**	1.2	
グリースの注入 • ユニバーサルジョイント • 爪軸ベアリングケース **【サイドドライブ仕様】** • 後２輪支柱左•右**【B仕様】** • ホルダ(ジョイント)内 スプライン部 **【S仕様】** • ロータリ入力軸 **【S仕様】**	適量	シャーシグリース
注油 • スプリングロックしゅう動部 **【E仕様を除く】** • オートハンガしゅう動, 回動部 **【E仕様を除く】** • 草巻付き防止ワイヤU金具内部 **【サイドドライブ仕様(E仕様を除く)】** • 内管(後２輪調整ネジ部) • スライドレバー部**【サイドドライブ仕様】** • ユニバーサルジョイントロックピン部	適量	クボタ純オイル (エンジンオイル)

推奨オイル・グリース一覧表

■ギヤーオイル

メーカ	ギヤーオイル
日石三菱	クボタ純オイル（ミッション用）M90
コスモ石油	クボタ純オイル（ミッション用）M90
ジャパンエナジー	クボタ純オイル（ミッション用）M90
昭和シェル石油	クボタ純オイル（ミッション用）M90
富士興産	クボタ純オイル（ミッション用）M90
モービル石油	モービルギヤ630

■グリース

メーカ	シャーシグリース	ホイールベアリンググリース
日石三菱	エピノックグリースAP-No.2	PAN WBグリース
コスモ石油	ダイナマックスEPNo.2	ロードマスターNo.2
ジャパンエナジー	リゾニックスグリースEPNo.2	リゾニックスグリースNo.2
昭和シェル石油	レチナックスCD	サンライトグリースNo.2
モービル石油	プレックス47	モービルグリースJL
エッソ石油	シャーシグリースL	リスタンWB2
出光興産	シャーシグリース	アポロイルオートレックスA
ゼネラル石油	シャーシグリースNo.2	WBグリースNo.2
キグナス石油	シャーシグリースNo.2	MPグリースNo.2

各部の油量点検と交換

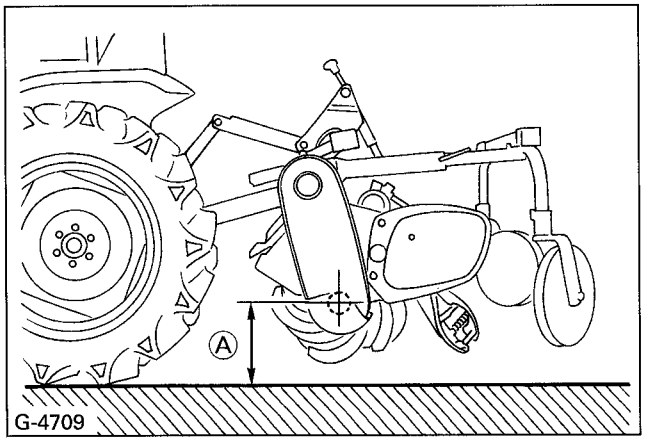
使用するギヤーオイルは，必ず**“クボタ純オイル”**を使用してください。(**“推奨オイル・グリース一覧表”**の項を参照)

補　足

＊ロータリのオイル量を点検するときは，トラクタの型式によってロータリの爪軸中心高さを調整して行なってください。
爪軸中心高が正しくないと正確な量を示さないことがあります。

オイル量点検時の爪軸中心高さh(cm)			
ロータリ / トラクタ	サイドドライブ		センタドライブ
	ギヤケース	チェーンケース	ロータリケース
GB16	31.5	26.5	45.0
GB16J, GB18	33.5	28.0	47.0
GB18J, GB20, B92	37.0	31.5	50.0
GB16K	22.5	16.5	34.0
GB18K, GB20K	24.0	18.0	38.5

(但しバラツキによる誤差はあります)



Ⓐ“爪軸中心高さ(h)”

■ギヤーケースオイル

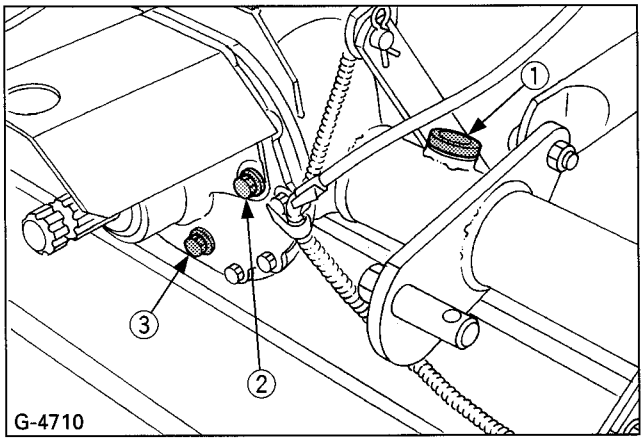
【サイドドライブ仕様】

◆点検

❶ロータリの爪軸中心高さを調整します。(**“各部の油量点検と交換”**の項を参照)

❷検油プラグを外し，検油口までオイルがあるか調べます。

❸検油口以下の場合は検油口まで補給してください。



①給油プラグ
②検油プラグ
③ドレーンプラグ

◆交換

❶ドレーンプラグを外してオイルを排出します。

❷ギヤーオイルを給油口から，規定量入れてください。

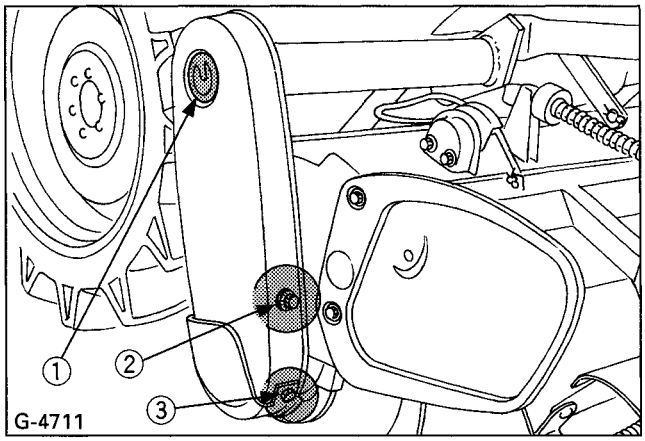
■チェーンケースオイル
【サイドドライブ仕様】

◆点検

❶ロータリの爪軸中心高さを調整します。(**“各部の油量点検と交換”**の項を参照)

❷検油プラグを外し，検油口までオイルがあるか調べます。

❸検油口以下の場合は検油口まで補給してください。



①給油口
②検油プラグ
③ドレーンプラグ

◆交換

❶ドレーンプラグを外してオイルを排出します。
検油プラグをゆるめておくと排出しやすくなります。

❷ギヤーオイルを給油口から，規定量入れてください。

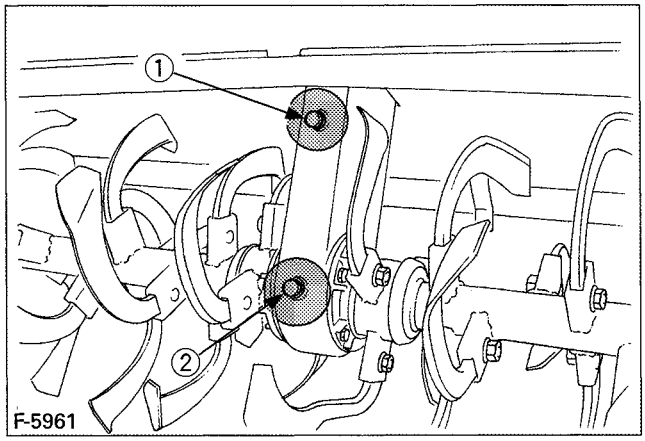
■ロータリケースオイル
【センタドライブ仕様】

◆点検

❶ロータリの爪軸中心高さを調整します。
(**“各部の油量点検と交換”**の項を参照)

❷検油プラグを外し，検油口までオイルがあるか調べます。

❸検油口以下の場合は検油口まで補給してください。

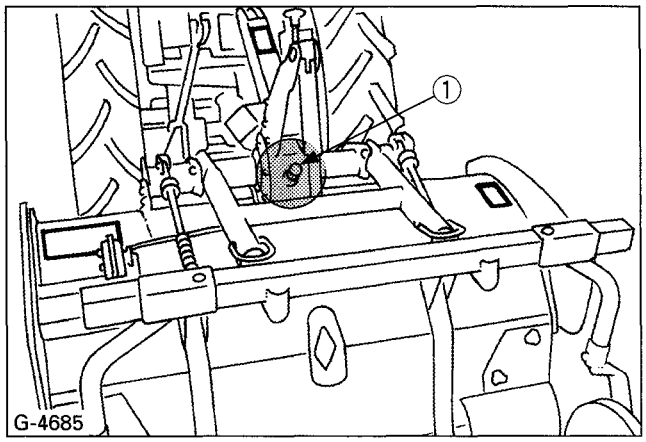


①検油プラグ
②ドレーンプラグ

◆交換

❶ドレーンプラグを外してオイルを排出します。
検油プラグをゆるめておくと排出しやすくなります。

❷ギヤーオイルを給油口から，規定量入れてください。



①給油プラグ

グリースの補給と注油

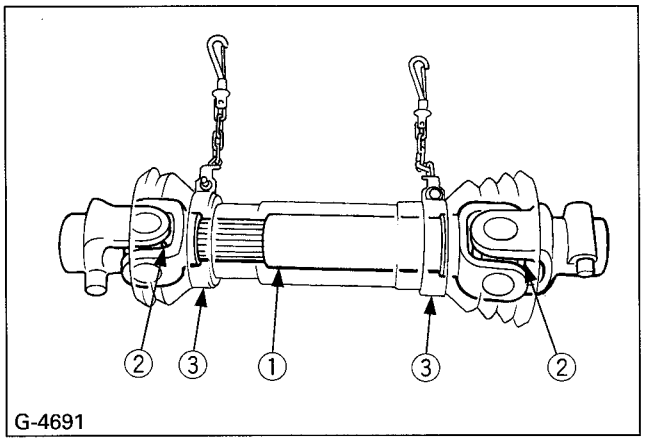
通常のグリースアップは，定期点検箇所一覧表に従って行なってください。但し，代かき作業などで泥水に入ったときは，作業終了後必ずグリースアップをしておきましょう。
グリースは，**“クボタ推奨グリース”**を使用してください。(**“推奨オイル・グリース一覧表”**の項を参照)

■ユニバーサルジョイント

しゅう動部は，ジョイントのオス・メス部を切離してスプライン部に，又，ベアリング(スパイダ)や安全カバー用ベアリング部に補給してください。

補　足

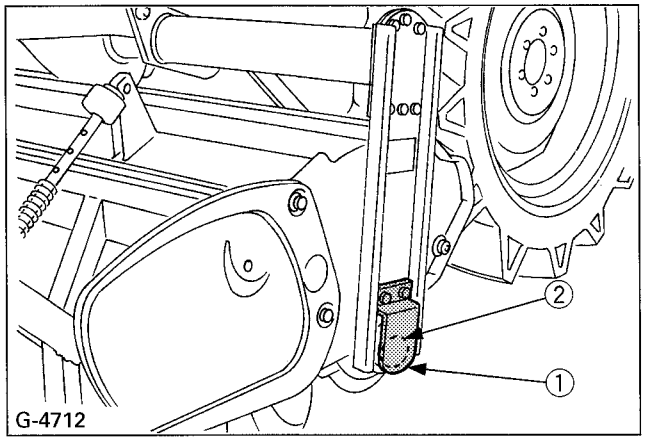
＊PTO軸・ロータリ側の軸にも，薄く塗布してください。



①しゅう動部(カバー内のスプライン部)
②ベアリング(スパイダ)のグリースニップル
③安全カバー用ベアリング部

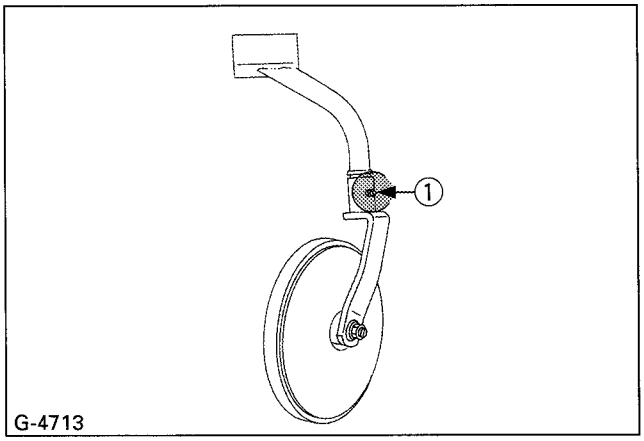
■爪軸ベアリングケース【サイドドライブ仕様】

サイドフレームのベアリングケースふたとプラグを外し，ベアリンググリースを交換します。



①ベアリングケースふた
②プラグ

■後2輪のグリースニップル部【B仕様】

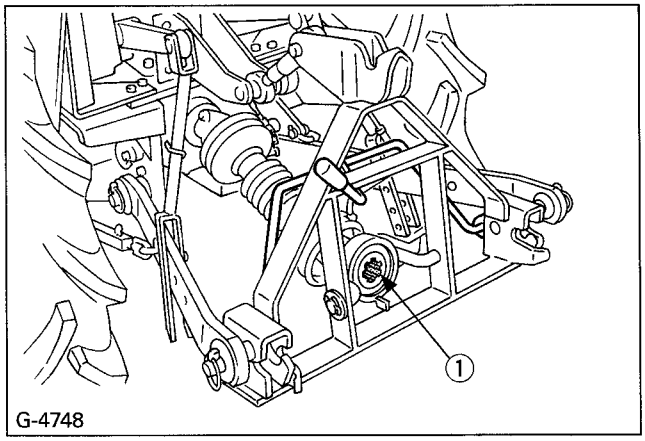


①グリースニップル

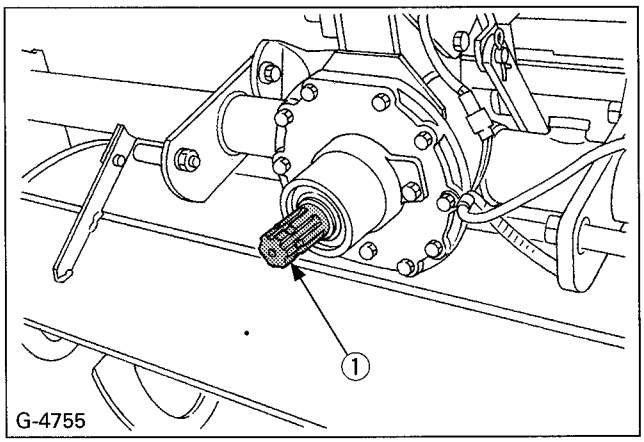
■ホルダ(ジョイント)内スプライン部【S仕様】，ロータリ入力軸【S仕様】

❶湿田耕うんや代かき作業後は，必ずロータリを切離し，ホルダ(ジョイント)内スプライン部とロータリ入力軸の，泥をきれいに水で洗い流し，下図箇所にグリースを適量塗布してください。

❷定期的にロータリを切離し，ホルダ(ジョイント)内スプライン部とロータリ入力軸にグリースを適量塗布してください。



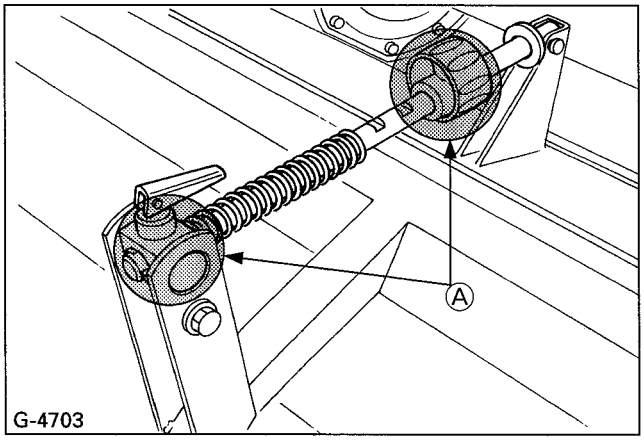
①ホルダ(ジョイント)内スプライン部



①ロータリ入力軸

■スプリングロックしゅう動部【E仕様を除く】
■オートハンガしゅう動，回動部
【E仕様を除く】

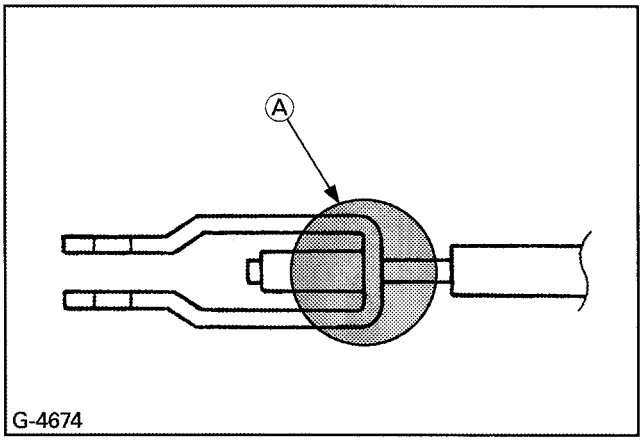
オイルを適量注油します。



Ⓐ“注油”

■草巻付き防止ワイヤU金具内部
【サイドドライブ仕様(E仕様を除く)】

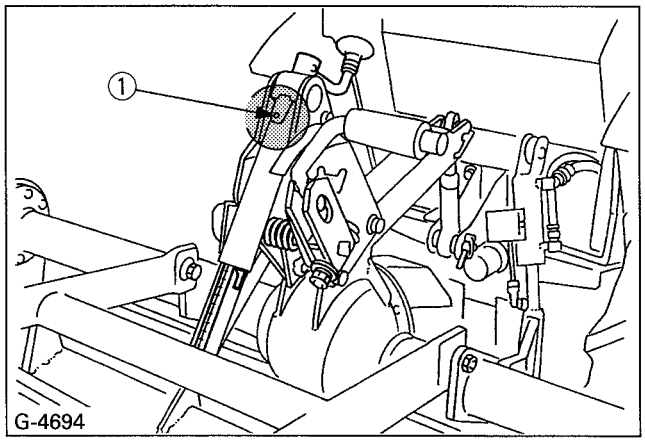
オイルを適量注油します。



Ⓐ“注油”

■内管(後２輪調整ネジ部)

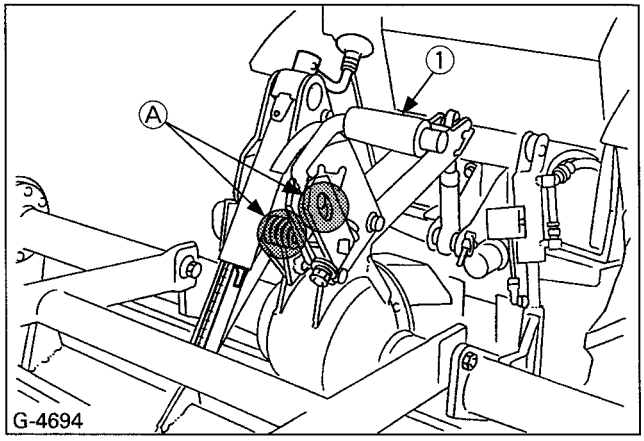
オイルを適量注油します。



①後２輪調整ネジ部

■スライドレバー部【サイドドライブ仕様】

各スプリング部にオイルを適量注油します。



①スライドレバー　　Ⓐ“注油”

シールの組換え

整備などの目的でギヤーケース，チェーンケース等を分解される場合は，必ず新しいオイルシール，ゴムキャップ，ゴム付座金，液状ガスケット等と交換してください。オイルもれの原因となります。
液状ガスケットはスリーボンド1206B又は1208D又は，相当品を使用してください。

付　表

主要諸元

型式	RSP101	RSP111	RSP121	RSP131	RSP141	RSP151	RSP161	RKP101	RKP121
駆動方式	サイドドライブ							センタドライブ	
機体寸法 全長(mm)	1317							1312	
機体寸法 全幅(mm)	1181	1281	1381	1481	1581	1681	1781	1152	1345
機体寸法 全高(mm)	976							973	
質量(kg)	149	153	157	164	169	173	178	138	148
適応トラクタ kW(PS)	GB16, GB18 11.8,13.2 (16, 18)	GB16, GB18, GB20, B92 11.8, 13.2, 14.7, 14.3 (16, 18, 20, 19.5)					GB18, GB20, B92 13.2, 14.7, 14.3 (18, 20, 19.5)	GB16, GB18, GB20, B92 11.8, 13.2, 14.7, 14.3 (16, 18, 20, 19.5)	
装着装置の種類	特殊3点リンク								
標準耕幅(cm)	101	111	121	131	141	151	161	98	122
標準耕深(cm)	12								
標準作業速度(km/h)	0.8～4.8								
入力軸回転数 min^{-1}(rpm)	451～1207(逆転564)F仕様 442～1192(逆転553)								
変速の有無	無								
耕うん軸回転数 min^{-1}(rpm)	GB16, GB18, GB20： 184［正転：154, 262, 411 逆転：192］［F仕様 正転：151, 257, 406 逆転：188］							GB16, GB18, GB20 180［正転：150, 256, 401 逆転：188］［F仕様 正転：147, 251, 396 逆転：184］	
耕うん爪取付方法	ホルダタイプ								
耕うん爪の種類と本数	331号R, L各11本 332号R, L各1本	331号R, L各12本 332号R, L各1本	331号R, L各13本 332号R, L各1本	331号R, L各14本 332号R, L各1本	331号R, L各15本 332号R, L各1本	331号R, L各16本 332号R, L各1本	331号R, L各17本 332号R, L各1本	321号R, L各10本 533号R, L各2本 534号R, L各1本	321号R, L各12本 533号R, L各2本 534号R, L各1本
耕うん爪の外径(cm)	45								
耕深調節機構	後方双尾輪式，モンローマチックオート式【トラクタのMA仕様】								
耕うん作業能率 $\frac{6000}{W \cdot V \cdot E}$ (分/10a)	17～99	15～90	14～83	13～76	12～71	11～66	10～62	17～102	14～82

注1. 機体寸法及び重量は，B仕様。(ユニバーサルジョイント含)

2. 耕うん軸回転数は入力軸540min^{-1}(rpm)のとき
［ ］内は各PTO変速での回転数

3. W：標準耕幅(cm)，V：標準作業速度(km/h)，E：ほ場作業効率(0.75)

標準付属品

取扱説明書	1
保証書	1
スパナ	1 ※

※サイドドライブ仕様のみ(E仕様を除く)

アタッチメント一覧表

◆ロータリ関係

分類	品番	品名	用途・仕様	併用アタッチメント	適応ロータリ								
					RSP 101	RSP 111	RSP 121	RSP 131	RSP 141	RSP 151	RSP 161	RKP 101	RKP 121
耕うん	70461-5555-0	爪取付け部品1	ボルト・ナット バネ座金各1個		○ 22	○ 24	○ 26	○ 28	○ 30	○ 32	○ 34	○ 26	○ 30
	7C705-5555-0	爪取付部品1	ボルト(草切爪用) ナット・バネ座金各1個		○ 2	○ 2	○ 2	○ 2	○ 2	○ 2	○ 2		
	96195-0670-0	200延長 爪軸アッシ10	左右各10cm 延長									○	
	96195-0690-0	400延長 爪軸アッシ10	左右各20cm 延長									○	
	96195-0680-0	200延長 爪軸アッシ12	左右各10cm 延長										○
整地	99742-4270-0	代かき セットⅠ(02)	整地幅125cm 延長各60cm付	前部ウエイト 本体アッシ(25kg) (96315-1051-0)			○					Ⓦ2	○
	99752-4270-0	代かき セットⅡ(02)	整地幅145cm 延長各60cm付					○	○			Ⓦ4	Ⓦ2
	99762-4270-0	代かき セットⅢ(02)	整地幅165cm 延長各60cm付							○	○		
	99772-4470-0	代かきセット 20延長	延長幅 左右各20cm	代かきセット Ⅰ(02)Ⅱ(02)Ⅲ(02)			○	○	○	○	○	Ⓦ2 Ⓦ4	○ Ⓦ2
	96272-2600-0	折りたたみ整地部	延長整地幅 左右各25cm		○ ※	○ ※	○ ※	○ ※	○ ※	○ ※	○ ※	○ ※	○ ※
うねたて	96220-7640-0	4号 うねたて機	溝幅12cm 羽根長さ85.4cm	うねたて金具 96220-7410-0 又は うねたて反転金具 99022-1772-0 (V仕様のみ)	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	96220-7650-0	5号 うねたて機	溝幅15cm 羽根長さ86.5cm		○	○	○	○	○	○	○	○	○
	96220-7660-0	7号 うねたて機	溝幅21cm 羽根長さ92cm		○	○	○	○	○	○	○	○	○
	96220-7410-0	うねたて金具アッシ		4号・5号・7号 うねたて機	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	96230-7150-2	片培土機アッシ			○	○	○	○	○	○	○	○	○
その他	98342-2911-0	GBA-101W あぜ際ディスク 取付ブラケット付き	溝幅12cm		○	○	○	○	○	○	○		
	98342-3011-0	GBA-101W あぜ際ディスク 取付ブラケット付き大系			○	○	○	○	○	○	○		
	98342-3111-0	サイドスキ完備 コールタ付き			○	○	○	○	○	○	○		
	98342-3211-0	サイドスキ 取付ブラケット付き			○	○	○	○	○	○	○		
	7F706-0211-0	スーパージョインキット (SJ16A)	トラクタとの装着を標準タイプをスーパージョイントに変更する。		○	○	○	○	○	○	○	○	○

○の下の数字は1台当りの個数を示します。
○の下の※はY仕様(折りたたみ整地部付き)には不可。
○内のW2は200延長爪軸付き仕様のみ，W4は400延長爪軸付き仕様のみを示します。

◆ロータリアタッチメント

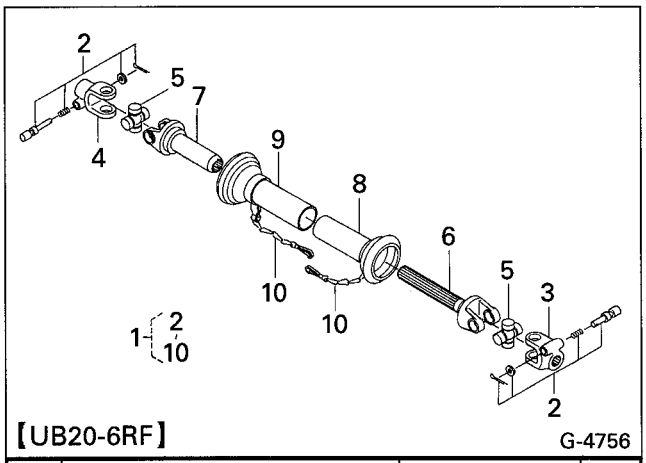
分類	品番	品名	用途・仕様	併用アタッチメント	適応ロータリ RSP101	RSP111	RSP121	RSP131	RSP141	RSP151	RSP161	RKP101	RKP121
マルチ・整形板※	96280-3504-0	平うねマルチアッシ（ヒッチなし）	プラウ爪 うね幅 70～125cm うね高さ 15cm フィルム幅 90～150cm	• 前部ウエイト本体アッシ 96315-1051-0 又は Bi-15バンパーウエイトアッシ 96315-1540-0 ※高うねマルチ用ヒッチ 96280-2351-2	○	○	○	○	○	○			
	96280-5504-0	平高うねマルチアッシ（ヒッチなし）	プラウ爪 うね幅 80～120cm うね高さ 15～30cm フィルム幅 110～150cm		○	○	○	○	○	○			
				GBカバーキット									
	96280-2504-0	高うねマルチアッシ（ヒッチなし）	プラウ爪３対付 うね幅 55～76cm うね高さ 33～38cm フィルム幅 110～135cm	• 前部ウエイト本体アッシ 96315-1051-0 又は Bi-15バンパーウエイトアッシ 96315-1540-0 ※高うねマルチ用ヒッチ 96280-2351-2	○	○	○	○	○	○			
	98619-0771-0	２畦マルチアッシ（ヒッチ付）	プラウ爪，リヤカバーなし うね幅 47～50cm うね高さ 27～30cm うね間隔 75～90cm フィルム幅 110～150cm					○	○	○			
	96280-5210-0	汎用平高うねマルチ（ヒッチなし）	プラウ爪なし，リヤカバー付 フィルム幅 95～180cm	GBカバーキット	○	○	○	○	○	○			
	96280-5505-0	平高うね整形板（ヒッチなし）	プラウ爪，リヤカバーなし	• 前部ウエイト本体アッシ 96315-1051-0 又は Bi-15バンパーウエイトアッシ 96315-1540-0 ※高うねマルチ用ヒッチ 96280-2351-2	○	○	○	○	○	○			
	96280-2352-0	高うね整形板アッシ（ヒッチなし）	プラウ爪３対付，リヤカバーなし うね幅 55～76cm うね高さ 33～38cm	• 前部ウエイト本体アッシ 96315-1051-0 又は Bi-15バンパーウエイトアッシ 96315-1540-0 ※高うねマルチ用ヒッチ 96280-2351-2	○	○	○	○	○	○			
		GBカバーキット	汎用平高成形機用 汎用高畦成形機用 汎用畦立マルチ用		○	○	○	○	○	○			
	98619-0871-0	RMS2-100 ２畦整形板	プラウ爪，リヤカバーなし うね幅 47～50cm うね高さ 27～30cm うね間隔 75～90cm	ブラケットアッシ（フロントウェイト） 99801-1100-1 HTフロントウェイトアッシ3枚					○	○	○		
	98619-1171-0	汎用平高うね整形板	プラウ爪なし リヤカバー付	GBカバーキット	○	○	○	○	○	○	○		
	96280-2351-2	高うねマルチ用ヒッチ			○	○	○	○	○	○	○		
	96198-0811-0	プラウ爪(右)			○	○	○	○	○	○	○		
	96198-0812-0	プラウ爪(左)			○	○	○	○	○	○	○		

※印は，部品変更をいたします。

アタッチメントの装着により前後バランスが悪くなった場合，下記ウェイトを装着してください。

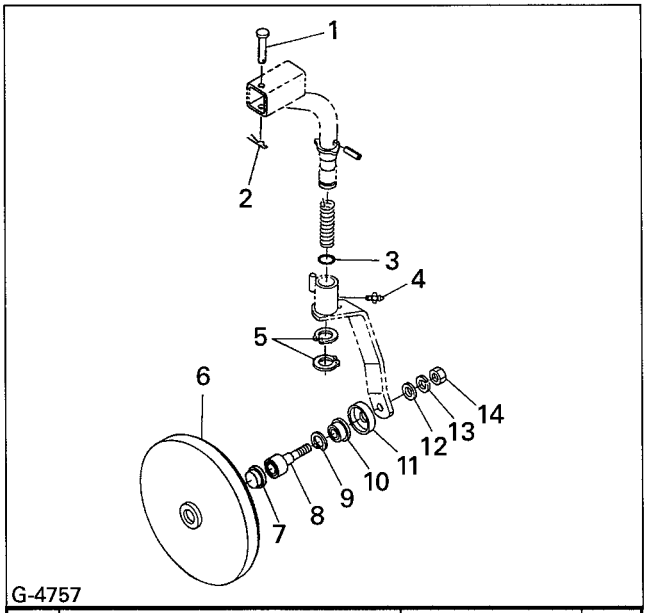
品　　番	品　　名	備　　考
96315-1051-0	前部ウェイト本体アッシ	25kg　　1個 使用個数　1個
96315-1540-0	B1-15バンパウェイトアッシ	40kg　　1個 使用個数　1個
96315-1240-0	ブラケットアッシ（フロントウェイト）	HTフロントウエイトアッシ(25kg)を最大5個(125kg)まで装着可
99801-1100-0	HTフロントウェイトアッシ	25kg　　1個 ブラケットアッシ(フロントウェイト)を併用のこと

主な消耗部品一覧表



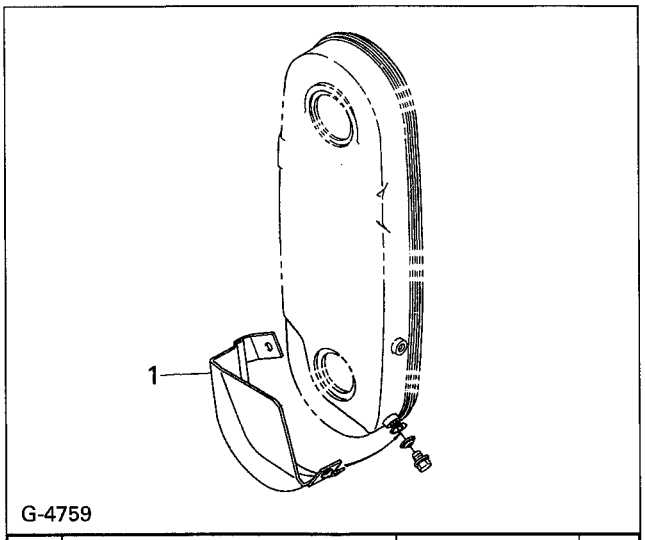
【UB20-6RF】　G-4756

図番	品　　名	品　　番	個数
1	ユニバーサルジョイントアッシ	7F712-4511-0	1
2	ロックピンアッシ	70415-5225-3	2
3	スプラインヨーク	70101-6815-0	1
4	スプラインヨーク	70710-6133-0	1
5	スパイダーアッシ	71161-8112-0	2
6	ヨーク(シャフト)	7F712-4513-0	1
7	ヨーク(スリーブ)	7F712-4514-0	1
8	カバー，アッシ(ジョイント，インナ)	7F712-4515-0	1
9	カバー，アッシ(ジョイント，アウタ)	7F712-4516-0	1
10	チェーン，アッシ	7F712-4517-0	2



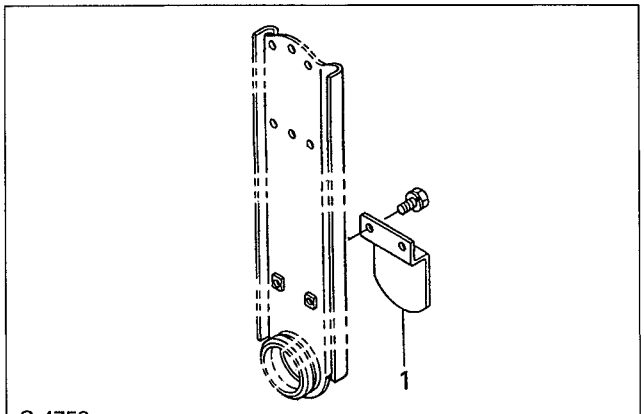
G-4757

図番	品　　名	品　　番	個数
1	頭付きピン	05122-51270	1
2	スナップピン	05516-51200	1
3	Oリング	04811-00380	1
4	グリースニップル	06613-10675	1
5	軸サークリップ	04612-50380	2
6	後2輪310	79153-7551-2	1
7	シールキャップ	79163-3549-0	1
8	後2輪軸アッシ	79153-3552-0	1
9	穴サークリップ	04611-00370	1
10	オイルシール	79153-3553-2	1
11	カバー(ステー)	70159-5754-0	1
12	平座金	04011-50160	1
13	バネ座金	04512-50160	1
14	ナット	02174-50160	1



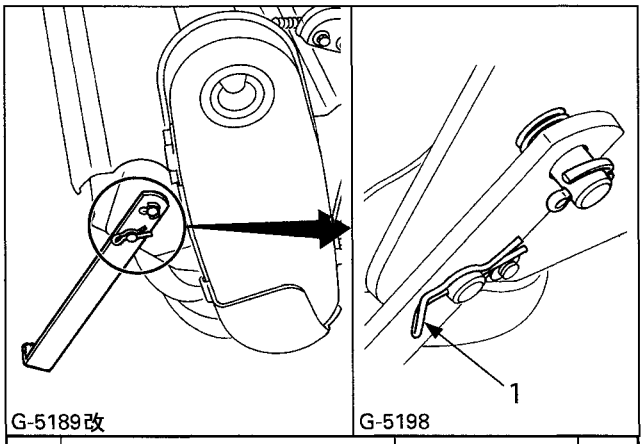
G-4759

図番	品　名	品　番	個数
1	カバー(保護，チェーンケース)	7F712-5284-2	1



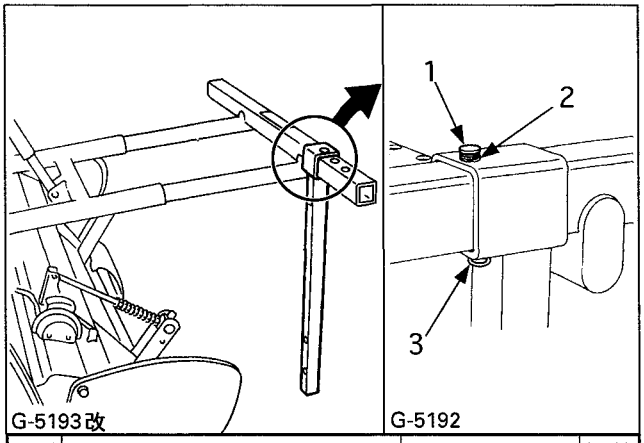
G-4758

図番	品　名	品　番	個数
1	カバー(サイドフレーム)	7F712-5232-0	1



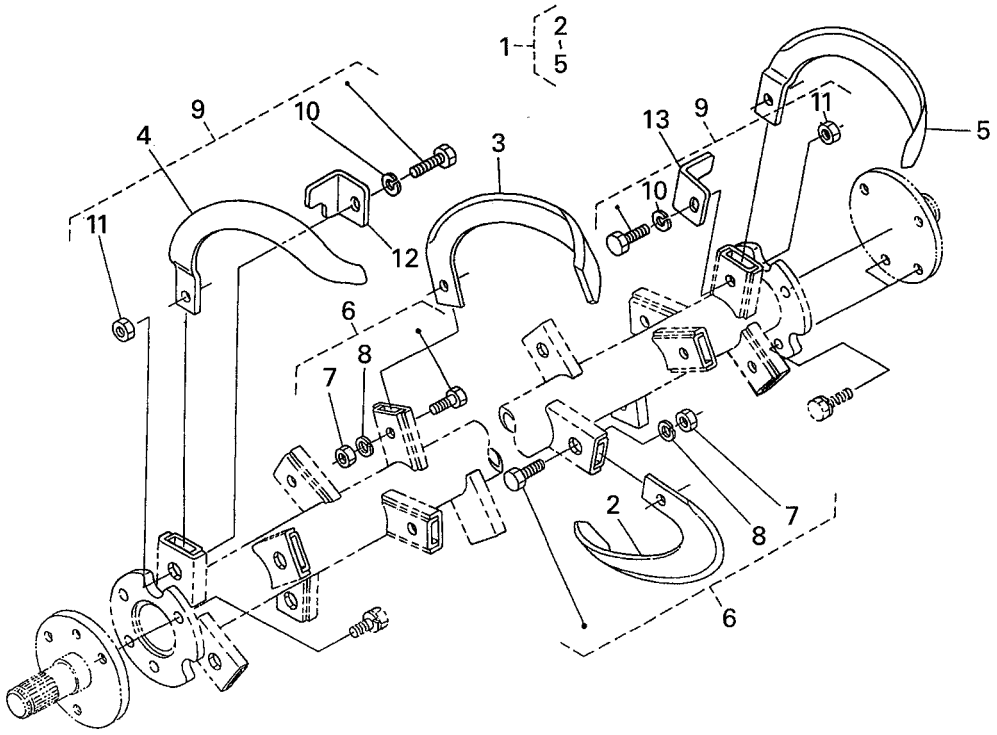
G-5189改　G-5198

図番	品　名	品　番	個数
1	スナップピン	05516-51200	1



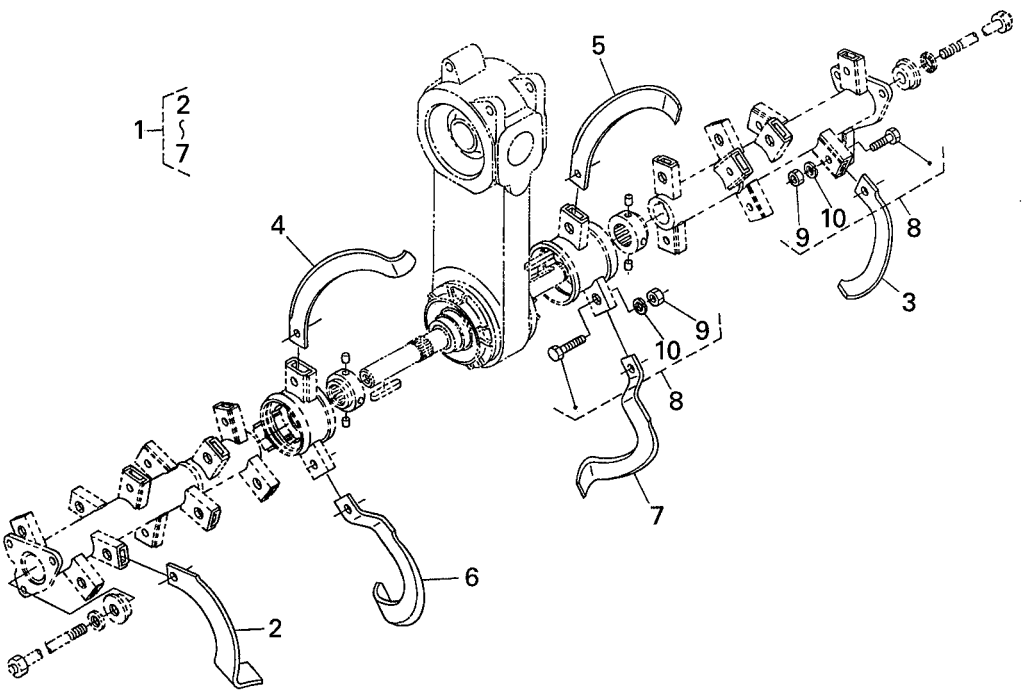
G-5193改　G-5192

図番	品　名	品　番	個数
1	アタマツキピン	7F723-5783-0	1
2	アッシュクスプリング	7F723-5784-0	1
3	スナップピン	05515-61000	1



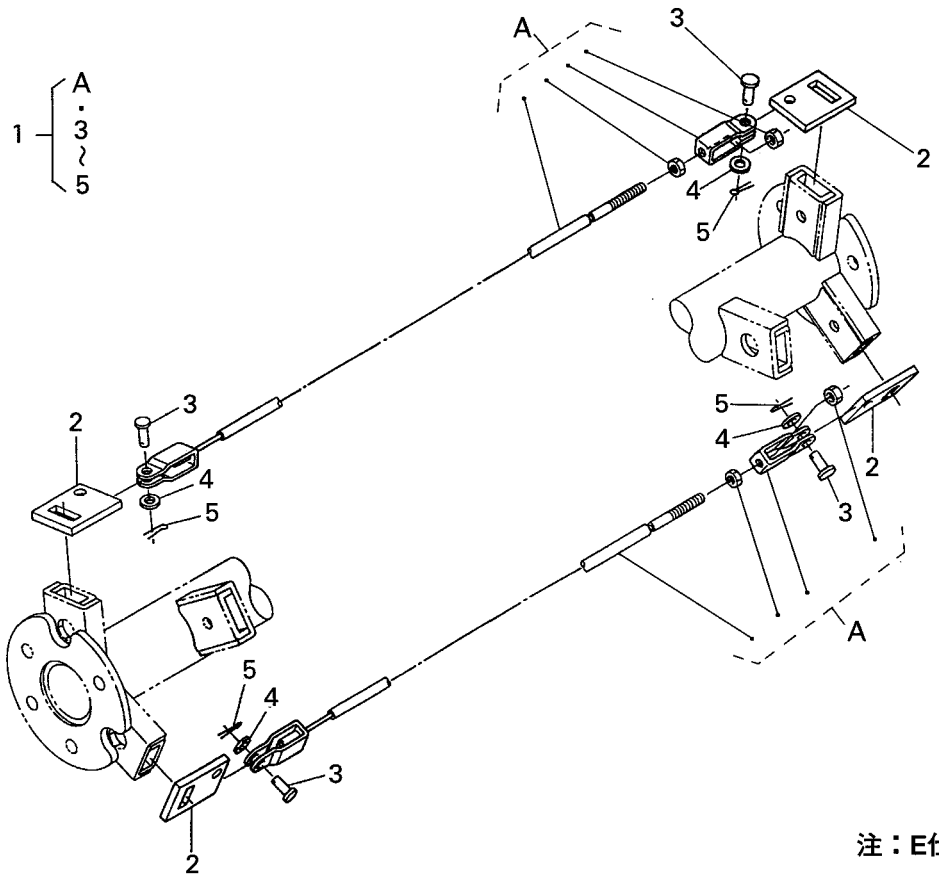
G-4760

図番	品　　名	品　　番	個　　数								
			RSP101	RSP111	RSP121	RSP131	RSP131E	RSP141	RSP141E	RSP151	RSP161
1	耕うん爪　アッシ	7F710-5754-3	1	-	-	-	-	-	-	-	-
1	耕うん爪　アッシ	7F711-5754-3	-	1	-	-	-	-	-	-	-
1	耕うん爪　アッシ	7F712-5754-3	-	-	1	-	-	-	-	-	-
1	耕うん爪　アッシ	7F713-5754-3	-	-	-	1	1	-	-	-	-
1	耕うん爪　アッシ	7F714-5754-4	-	-	-	-	-	1	1	-	-
1	耕うん爪　アッシ	7F715-5754-3	-	-	-	-	-	-	-	1	-
1	耕うん爪　アッシ(16)	7F716-5754-3	-	-	-	-	-	-	-	-	1
2	331号　耕うん爪　左	7F712-5581-0	11	12	13	14	14	15	15	16	17
3	331号　耕うん爪　右	7F712-5582-0	11	12	13	14	14	15	15	16	17
4	332号　増幅爪　左	7F712-5585-0	1	1	1	1	1	1	1	1	1
5	332号　増幅爪　右	7F712-5586-0	1	1	1	1	1	1	1	1	1
6	爪取付け部品	70461-5555-0	22	24	26	28	30	30	32	32	34
7	爪取付けナット	64135-9519-3	22	24	26	28	30	30	32	32	34
8	バネ座金	04512-50100	22	24	26	28	30	30	32	32	34
9	爪取付け部品	70705-5555-0	2	2	2	2	-	2	-	2	2
10	バネ座金	04512-50100	2	2	2	2	-	2	-	2	2
11	爪取付けナット	64135-9519-3	2	2	2	2	-	2	-	2	2
12	ブレード(ターフカット，L)	7F712-5574-0	1	1	1	1	-	1	-	1	1
13	ブレード(ターフカット，R)	7F712-5575-0	1	1	1	1	-	1	-	1	1



G-4761

図番	品　　名	品　　番	個　数	
			RKP101	RKP121
1	なた爪アッシ	70190-5754-0	1	-
1	なた爪アッシ	70180-5754-0	-	1
2	321号　耕うん爪　左	96181-1221-2	10	12
3	321号　耕うん爪　右	96181-1222-2	10	12
4	533号　なた爪　　左	70101-5551-4	2	2
5	533号　なた爪　　右	70101-5552-4	2	2
6	534号　変形爪　　左	70101-5553-4	1	1
7	534号　変形爪　　右	70101-5554-4	1	1
8	ボルト	32142-5595-2	26	30
9	爪取付けナット	64135-9519-3	26	30
10	バネ座金	04512-50100	26	30



G-4762

注：E仕様にはなし

図番	品　　名	品　　番	個　数						
			RSP101	RSP111	RSP121	RSP131	RSP141	RSP151	RSP161
1	ワイヤ(ブヒンアッシ，10)	7F710-9905-0	2	-	-	-	-	-	-
1	ワイヤ(ブヒンアッシ，11)	7F311-9905-0	-	2	-	-	-	-	-
1	ワイヤ(ブヒンアッシ，12L)	7F312-9905-0	-	-	2	-	-	-	-
1	ワイヤ(ブヒンアッシ，13)	7F313-9905-0	-	-	-	2	-	-	-
1	ワイヤ(ブヒンアッシ，14)	7F714-9905-0	-	-	-	-	2	-	-
1	ワイヤ(ブヒンアッシ，15)	7F715-9905-0	-	-	-	-	-	2	-
1	ワイヤ(ブヒンアッシ，16)	7F716-9905-0	-	-	-	-	-	-	2
2	ステー(1)	7F712-5573-0	4	4	4	4	4	4	4
3	頭付きピン	05122-50820	4	4	4	4	4	4	4
4	平座金	04012-50080	4	4	4	4	4	4	4
5	割りピン	05511-50215	4	4	4	4	4	4	4

補修用部品の供給年限について

この製品の補修用部品の供給年限(期間)は製造打ち切り後12年といたします。
ただし、供給年限内であっても特殊部品につきましては、納期等についてご相談させていただく場合もあります。
補修用部品の供給は原則的には上記の供給年限で終了いたしますが、供給年限経過後であっても部品供給のご要請があった場合には、納期及び価格についてご相談させていただきます。

純正部品を使いましょう

補修用部品は、安心してご使用いただける純正部品をお買い求めください。
市販類似品をお使いになりますと機械の不調や、機械の寿命を短くする原因になります。

純正アタッチメントを使いましょう

純正アタッチメントは一番よくマッチするように研究され、徹底した品質管理のもとで生産・出荷していますので、安心して使っていただけます。
市販類似品をお使いになりますと、作業能率の低下や機械の寿命を短くする原因となります。

株式会社クボタ

札幌支店：電(011) 662-2121	〒063-0061	札幌市西区西町北16丁目1番1号
仙台支店：電(022) 384-5151	〒981-1221	名取市田高字原182番地の1
東京支店：電(048) 862-1121	〒338-0832	浦和市西堀5丁目2番36号
大阪支店：電(0722) 41-8506	〒590-0806	堺市緑ヶ丘北町1丁1番36号
岡山支店：電(086) 279-4511	〒703-8216	岡山市宍甘275番地
福岡支店：電(092) 606-3161	〒811-0213	福岡市東区和白丘2丁目2番76号

株式会社クボタアグリ東北

秋田事業所：電(0188) 45-1601	〒011-0901	秋田市寺内字大小路207-54
仙台事業所：電(022) 384-5162	〒981-1221	名取市田高字原182番地の1

株式会社クボタアグリ東京

東京事業所：電(048) 862-1124	〒338-0832	浦和市西堀5丁目2番36号
新潟事業所：電(025) 285-1261	〒950-0992	新潟市上所上1丁目14番15号

株式会社クボタアグリ大阪

金沢事業所：電(0762) 75-1121	〒924-0038	松任市下柏野町956-1
名古屋事業所：電(0586) 24-5111	〒491-0031	一宮市観音町1番地の1
大阪事業所：電(0722) 41-8550	〒590-0806	堺市緑ヶ丘北町1丁1番36号

株式会社クボタアグリ中四国

米子事業所：電(0859) 33-5011	〒683-0804	米子市米原7丁目1番1号
岡山事業所：電(086) 279-4511	〒703-8216	岡山市宍甘275番地
高松事業所：電(0878) 74-5091	〒769-0102	香川県綾歌郡国分寺町国分字向647-3

株式会社クボタアグリ九州

福岡事業所：電(092) 606-3725	〒811-0213	福岡市東区和白丘2丁目2番76号
熊本事業所：電(096) 357-6181	〒861-4147	熊本県下益城郡富合町大字廻江846-1

品番　7F712－5991－4

Kubota